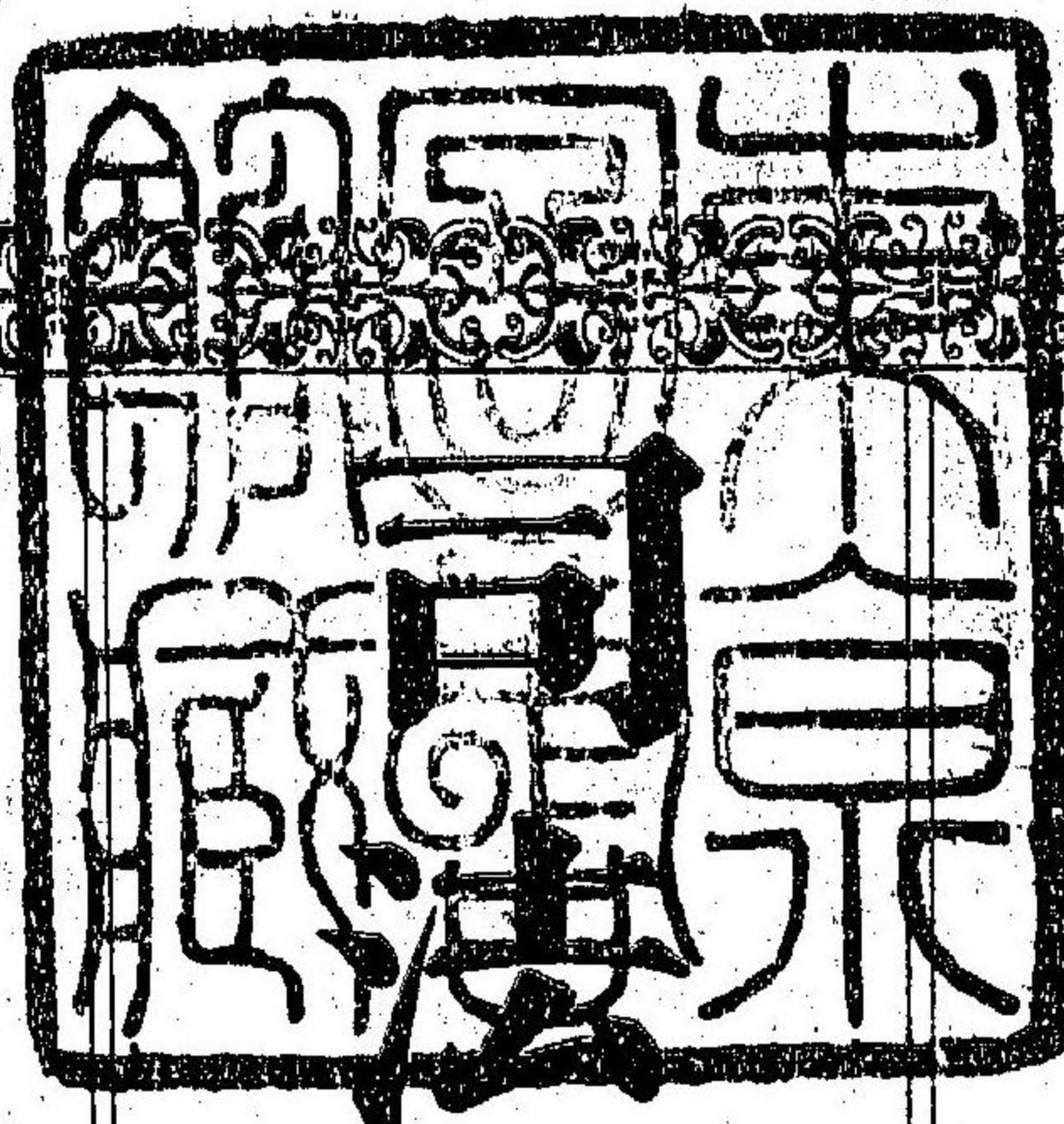


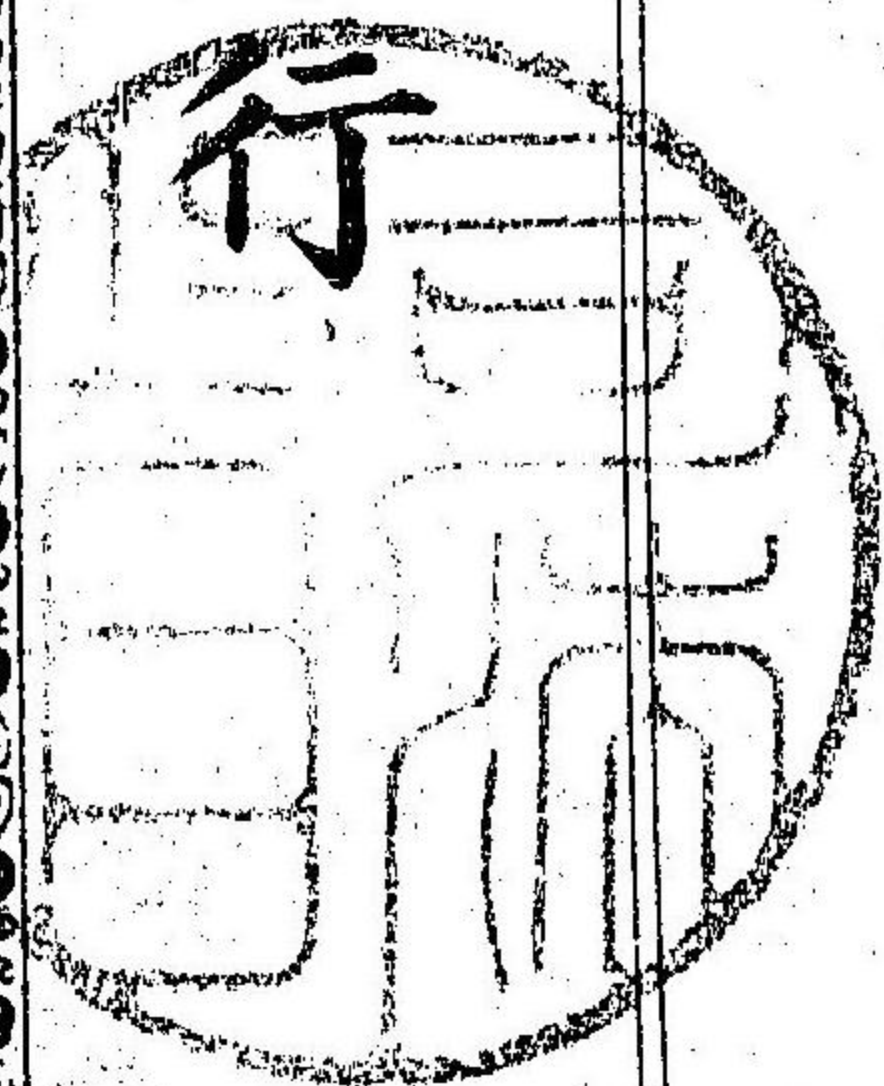
4#10-47



司法部藏版

省達全書

明治十八年五月印行



CE  
771  
05

明治十六年司法省達全書

甲號目次

甲第一號	治安裁判所管轄區郡分管町村名	一丁
表ヲ改正ス		
甲第二號	民事訴訟ハ支應へ出訴スへキ者 モ被告人ノ承諾ヲ得タル上ハ本 應へ出訴スルヲ得	廿五丁
甲第三號	本年甲第一號中改正	廿六丁
甲第四號	富山始審裁判所開廳	廿八丁
甲第五號	佐賀始審裁判所開廳	廿九丁
甲第六號	宮崎始審裁判所開廳	同丁
甲第七號	田邊支應開廳	同丁
甲第八號	高山支應開廳	三十丁

二

- 甲第九號 赤間關木更津兩支廳開廳 三十丁
- 甲第十號 平戸石卷兩支廳開廳 同 丁
- 甲第十一號 福江大島兩支廳開廳 三十一丁
- 甲第十二號 大曲支廳開廳 同 丁
- 甲第十三號 大館治安裁判所開廳 同 丁

丙號目次

- 丙第一號 外國公使館ニ備ハレタル内國人  
ニ對シ令狀發シ方 三十二丁
- 丙第二號 勅委任官華族輩犯罪取扱方 三十三丁
- 丙第三號 警察署廢置等届出方 三十五丁
- 丙第四號 監倉等ニ在ル被告人ニ對シ書類送達  
方 三十六丁
- 丙第五號 依田儀作ノ人相書ヲ取消ス 三十七丁

- 丙第六號 陸軍下士率犯罪處分申報方 三十八丁
- 丙第七號 雜收入金豫算調成方 三十九丁
- 丙第八號 保釋責付者取締方ノ丁號達ヲ示  
ス 同 丁

- 丙第九號 公訴裁判費用區分 四十一丁
- 丙第十號 雜收入金上納記并ニ明細書々式  
改正 四十二丁

丁號目次

- 丁第一號 支廳ノ印章ヲ定ム 四十五丁
- 丁第二號 支廳管内ノ治安裁判所ニ於テ輕  
罪裁判所ヲ開クニ用ル印章 四十六丁
- 丁第三號 布告類配付部數ノ達ニ追加ス 四十七丁
- 丁第四號 裁判所ヨリ戸長ニ對スル公文往  
來 同 丁

三

四

復方

四十七丁

丁第五號 戸長ヲ經テ刑事書類ヲ本人へ送

達スル使丁賃錢繰替方

四十八丁

丁第六號 民事裁判上引合人トシテ出廷セ

シメタル官吏ノ着席ヲ定ム

四十九丁

丁第七號 官員勤怠調方ヲ改定ス

同 丁

丁第八號 飯山并ニ大坂銀行ニ對スル詞訟

處分方

五十一丁

丁第九號 裁判上警部代理ノ巡查取扱方ヲ

定ム

同 丁

丁第十號 治安裁判所ニ於テハ出仕ヲ以テ

民事裁判ニ從事スルヲ得セシム

五十二丁

丁第十一號 身代限分配加入訴取扱方

五十三丁

丁第十二號 裁判上徴收スル金錢授受ノ手續

ヲ定ム

五十六丁

丁第十三號 始審裁判所ニ於テ開キシ重罪裁

判事件表調成方

同 丁

丁第十四號 重罪裁判所ノ執行及裁判費用徴

收取調差出期限

五十七丁

丁第十五號 扶助料ヲ有スル元軍人犯罪處分

ノ節ハ大藏省へ通報セシム

五十八丁

丁第十六號 各廳現在員明細表雛形ヲ定ム

五十九丁

丁第十七號 明治十三年丁第七號處務時限ノ

違ヲ應ス

六十三丁

丁第十八號 義務ノ證書ニ付代人ヲ相手取出

訴スル者取扱方

六十四丁

五

六

- 丁第十九號 福島第百八國立銀行ニ對スル詞訟處分方 六十五丁
- 丁第二十號 官報購入部數ヲ定ム 六十六丁
- 丁第廿一號 免狀ヲ有スル船長以下ノ者犯罪處分ノ節ハ農商務省ニ通知セシム 六十七丁
- 丁第廿二號 函館縣下布告布達施行期限 同 丁
- 丁第廿三號 陸軍既決囚犯罪處分方 七十丁
- 丁第廿四號 島根鹿兒島兩縣下布告布達施行期限 七十二丁
- 丁第廿五號 陸軍恩給ヲ有スル者犯罪處斷ノ節ハ届出シム 七十六丁
- 丁第廿六號 豫審表中ニ追加ス 七十七丁

丁第廿七號 明治十四年當省丁第八號達ヲ廢

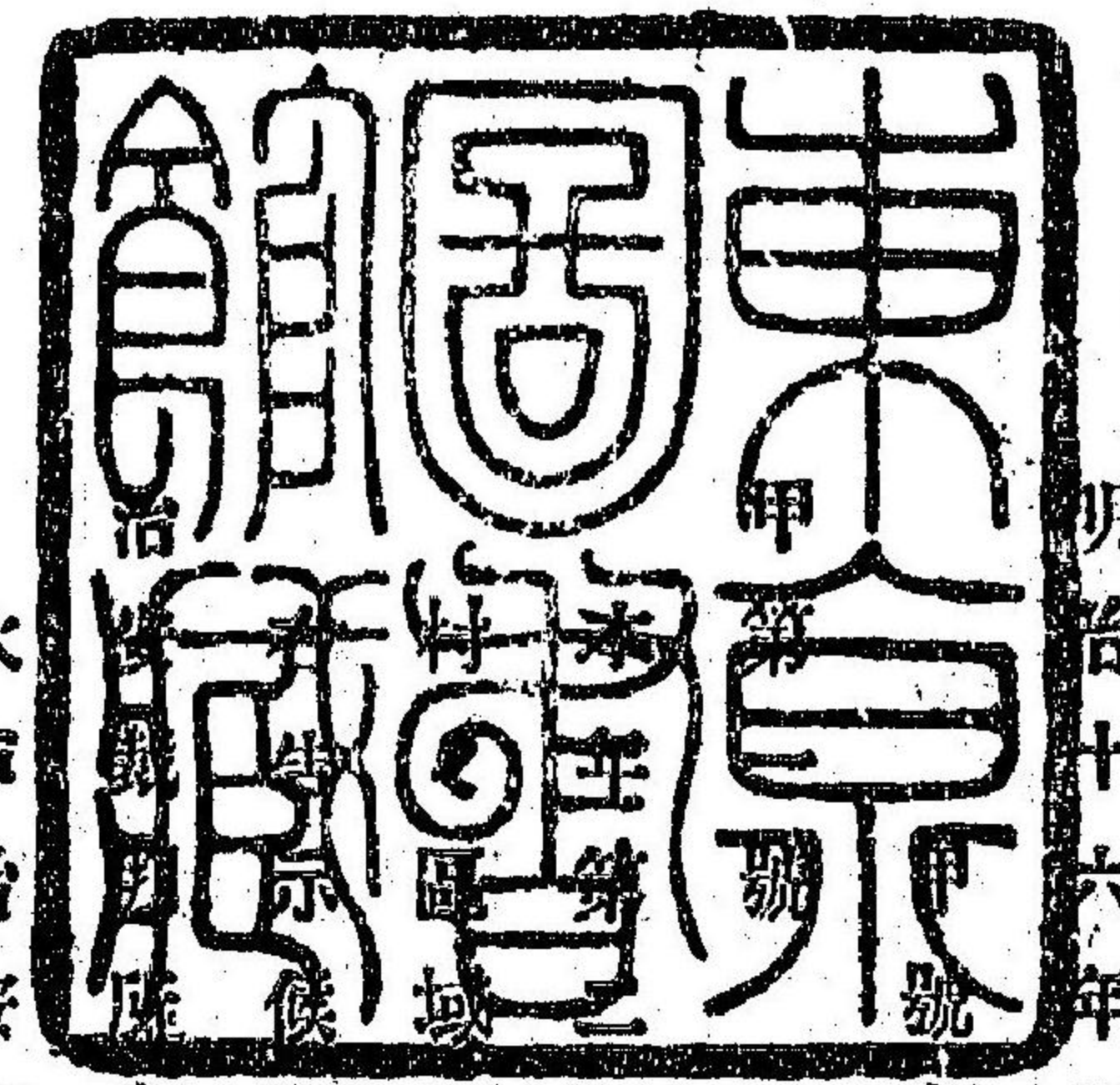
ス

同 丁

七

- 丁第廿八號 重罪登記簿ニ追加ス 七十八丁
- 丁第廿九號 山形縣下布告布達施行期限 九十一丁
- 丁第三十號 沖繩縣下布告布達施行期限 九十四丁
- 丁第卅一號 保釋責付者取締條件ヲ定ム 九十五丁
- 丁第卅二號 華族犯罪處刑又ハ拘留ノ節ハ宮内省ニ通報セシム 九十六丁
- 丁第卅三號 刑事裁判費用ノ程限ヲ定メ伺出テシム 九十七丁
- 丁第卅四號 山口縣下布告布達施行期限 九十八丁
- 丁第卅五號 諸役所ノ帳簿借受等費用支辨方 百 丁
- 丁第卅六號 新潟縣下布告布達施行期限 百一丁

八	丁第卅七號	治罪法表式中追加	百二丁
	丁第卅八號	大坂府下第二十六國立銀行ニ係 ル訴訟取扱方	百三丁
	丁第卅九號	醫師犯罪處斷ノ節内務省へ通報 方	同丁
	丁第四十號	各表目錄書式	百四丁
	客年丁第五十號	達中正誤	百十六丁



明治十六年司法省達全書

甲第一號之部

一月十二日

本主簿ニ號公布裁判所管轄表中某郡ノ内ト掲載アル町  
別紙ノ通心得ヘシ

并告示係事

水戸治安裁判所

鹿嶋郡ノ内

一	神	城ノ	小	駒	神
	山	内	堤	場	宿
	村	村	村	村	村
		澤	海	宮	
		尻	老	ケ	
		村	澤	崎	
			村	村	
		上	釜	成	
		下	田	田	
		太	村	崎	
		田		村	
		村			

二

網掛村	白塚村	德宿村	飯名村	鳥栖村	灘濱村	大和田村	荒地村	勝下新田	安塚村	梶山村	江川村	飯嶋村
鉾田村	柏熊村	塔ヶ崎村	安房村	駒木根村	上富田村	鹿田村	子生村	玉田村	二重作村	青山村	中居村	上澤村
畑田村	柏熊新田	當間村	秋山村	榎山村	紅葉村	造谷村	勝下村	大戸村	札村	阿玉村	大藏村	汲上村

臺濁澤村

大竹村

菅野谷村

土浦治安裁判所

鹿嶋郡ノ内

水戸治安裁判所管轄ノ除キ外一圓

下田治安裁判所

加茂郡ノ内

沼津治安裁判所管轄ノ除キ外一圓

沼津治安裁判所

加茂郡ノ内

三

綱代村	伊豆山村	十足村	岡村
上多賀村	初嶋村	荻村	竹ノ内村
熱湯村	泉村	鎌田村	吉田村

四

川奈村	新井村	和田村
松原村	湯川村	宇佐美村
篠場村	貴僧坊村	姫ノ湯村
戸倉野村	地藏堂村	原保村
菅引村	中原戸村	徳永村
冷川村	柳瀬村	八幡村
關野村	城瀬村	宮上村
梅木村	下上白岩村	

松本治安裁判所

東筑摩郡ノ内

大町治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

西筑摩郡ノ内

奈良井村 費川村

南安曇郡ノ内

大町治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

北安曇郡ノ内

七貴村

上伊那郡ノ内

小野村

三里村

伊那富村

中箕輪村

西箕輪村

南箕輪村

伊那村

飯田治安裁判所

上伊那郡ノ内

松本上諏訪兩治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

上諏訪治安裁判所

五 上伊那郡ノ内



六

藤澤村	長藤村	上山田村
小原村	勝間村	非持村
山室村	荊口村	芝平村
長谷村	東高遠村	美薦村
伊那部村	西岡村	福島村
東箕輪村	三日町村	福與村
樋口村	平井出村	赤羽村
澤底村		

大町治安裁判所

北安曇郡ノ内

松本治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

南安曇郡ノ内

有明村

東筑摩郡ノ内

生坂村

福島治安裁判所 信濃

西筑摩郡ノ内

松本治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

長野治安裁判所

埴科郡ノ内

上田治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

更級郡ノ内

上田治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

上水内郡ノ内

飯山治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

七

飯山治安裁判所

八

上水内郡ノ内

淺野村

大倉村

蟹澤村

上田治安裁判所

埴科郡ノ内

南條村

中ノ條村

坂木村

磯部村

戸倉村

内川村

千本柳村

上徳間村

寂蒔村

鑄物師屋村

打澤村

櫻堂村

小島村

東船山村

屋代村

向八幡村

更級郡ノ内

網掛村

上五明村

上平村

力石村

新山村

上山田村

若宮村

羽尾村

須坂村

八幡村

桑原村

鹽崎村

稻荷山村

長岡治安裁判所

刈羽郡ノ内

八石山以東小國谷郷太郎村外二十四ヶ村

柏崎治安裁判所

刈羽郡ノ内

長岡治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

京都治安裁判所

宇治郡ノ内第一組第二組

伏見治安裁判所

宇治郡ノ内第三組第四組

九

〇一

宮津治安裁判所

加佐郡ノ内

福知山治安裁判所管轄ノ除キ外一圓

福知山治安裁判所

加佐郡ノ内

河守町 關村 天田内村

二俣村 内宮村 毛原村

佛性寺村 北原村 橋谷村

金屋村 上野村 波美村

南有路村 千原村 尾藤村

常津村 在田村 南山村

夏間村 日藤村 公庄村

小原田村 鬮原村 村

天王寺治安裁判所

志紀郡ノ内

南木本村 太田村 沼村

柏原村 弓削村 市村新田

田井中村 老原村 天王寺屋新田

二俣村

堺治安裁判所

志紀郡ノ内

天王寺治安裁判所管轄ノ除キ外一圓

奈良治安裁判所

高市郡ノ内

八木村

葛下郡ノ内

一一

平野村 今泉村 今市村  
 王寺村 門前村 畠田村  
 高村 上里村 中筋村  
 中筋村出作方 上牧村 藤井村  
 下上

五條治安裁判所

高市郡ノ内

奈良治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

葛下郡ノ内

奈良治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

岡山治安裁判所

賀陽郡ノ内

高梁治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

高梁治安裁判所

賀陽郡ノ内

日羽村 宇山村 延原村  
 稿村 西村 北村  
 祖谷村 宮地村 美袋村  
 種井村

高松治安裁判所

阿野郡ノ内

丸龜治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

丸龜治安裁判所

阿野郡ノ内

福江村 御供所村 坂出村  
 江尻村 西庄村 氏部村  
 林田村 鳴村 高屋村

四一

神谷村  
青海村  
乃生村

名古屋治安裁判所

愛知郡ノ内

日置村

東古渡村  
南押切村  
西名古屋村  
廣井村

熱田治安裁判所

愛知郡ノ内

前津小林村

名古屋治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

長崎治安裁判所

西彼杵郡ノ内

福江治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

福江治安裁判所

西彼杵郡ノ内

平嶋村

大分治安裁判所

速見郡ノ内

内籠村

鐵輪村

別府村

東山村

川北村

川西村

北海郡ノ内

宮河内村

五一

迫村

野田村

鶴見村

濱脇村

川上村

塚原村

下川村

廣内村

丹生村

龜川村

南石垣村

南立石村

川南村

中川村

谷川村

種具村

丹川村

末廣村	大濱村	佐志生村	諏訪村	關村	神崎村	細田村	木下村	竹下村	横田村	志村	里村	一木村
井村	嶽谷村	下ノ江村	大野村	白木村	大平村	馬場村	久原村	城原村	政所村	角子原材	市尾村	久土村
稻田村	田尻村	中津浦村	田井村	一尺屋村	志生木村	木佐上村	上野村	市濱村	濱村	北村	尾山村	原村

勝河内村	吉小野村	兵室村	家野村	深田村	搔懷村	東神野村	海添村	大泊村	大野郡ノ内	西神野村	清水原村	落谷村
武山村	久木小野村	市濱村	野田村	中尾村	高山村	臼杵村	福真村	風成村	垣河内村	白岩村	野口村	野津市村
中白杵村	江無田村	前田村	望月村	左津留村	乙見村	二王座村	板知屋村	深江村	泊村	岩屋村	野津市村	野津市村

八里合村	福真木村	龜甲村
王子村	山頭村	宮原村
老松村	都原村	鳥獄村
千塚村	西塞田村	久原村
前河内村	吉田村	原村
藤小野村	袖ノ木村	大寒村
秋山村	西畑村	東谷村
下津合村	犬飼村	田原村
黒松村	長峯村	高津原村
柴北村		

佐伯治安裁判所  
 北海部郡ノ内  
 大分治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

大野郡ノ内	重岡村	大平村	鹽見園村
	河内村	小野市村	田原村
	木浦内村	木浦鑛山	千束村

竹田治安裁判所  
 大野郡ノ内  
 大分佐伯兩治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

杵築治安裁判所  
 速見郡ノ内  
 大分治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

鹿兒嶋治安裁判所  
 日置郡ノ内  
 永引治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

水引治安裁判所

日置郡ノ内

長里村

大里村

川上村

江口浦

荒川村

申木野村

宮崎治安裁判所

那珂郡ノ内

吉村

島ノ内村

江田村

湯田村

伊作田村

湊村

上名村

島平村

荒川村

申木野村

瀬頭村

鹽路村

新別府村

養母村

神之川村

湊町

下名村

濱浦

荒川村

申木野村

芳土村

山崎村

新名爪村

廣原村

上田島村

下田島村

諸縣郡ノ内

系原村

八代南俣村

向高村

飯田村

五町村

南俣村

北俣村

北本庄村

須志田村

吉野村

東上那珂村

西上那珂村

廣瀬村

柳瀬村

深年村

田尻村

浦ノ名村

高濱村

三名村

竹田村

六日町

岩知野村

下那珂村

佐土原町

有田村

入野村

花見村

内山村

高岡町

伊左生村

森永村

十日町

木脇村



嵐田村 塚原村 小山田村  
上倉永村 宮水流町

都城治安裁判所

那珂郡ノ内

宮崎治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

諸縣郡ノ内

宮崎治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

福島治安裁判所

田村郡ノ内

平治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

白河治安裁判所

安積郡ノ内

若松治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

平治安裁判所

田村郡ノ内

小野新町村

谷津作村

南田原井村

和名田村

上羽出庭村

鹽庭村

小野赤沼村

葛浦谷村

皮籠名村

湯澤村

小戸神村

榎本村

上道渡村

中津川村

榎山神村

下道渡村

田母神村

柳橋村

谷田川村

浮金村

糠塚村

小野山神村

菅谷村

吉野邊村

雁股田村

菅野村

神股村

飯豐村

牧野村

堀越村

栗出村

廣瀬村

遠山澤村

門澤村

桐山村

青森治安裁判所

館	横濱	馬入瀬田	馬入瀬田	福良	三代
村	村	村	村	村	村
中野	船津	福良	福良	赤津	
村	村	村	村	村	

若松治安裁判所

鹿山	關本	古道	常葉	今泉	下大越	上越	永谷
村	村	村	村	村	村	村	村
	小檜山	堀田	山根	西向	川曲	蘆澤	船引
	村	村	村	村	村	村	村
	新田作	早稻川	岩井澤	久保	春山		
	村	村	村	村	村		

安積郡ノ内

青森治安裁判所

上北郡ノ内

野邊地	馬門	花松	二ッ森	野崎	甲地
村	村	村	村	村	村
有戸	天間館	附田			
村	村	村			
横濱	中岫	覆林			
村	村	村			

八戸治安裁判所

上北郡ノ内

○ 青森治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

甲第二號 一月三十一日

本年第二號布告ヲ以テ始審裁判所管内ニ支廳ヲ設置候  
 付テハ民事ノ訴訟ハ支廳へ出訴スルモト雖モ被告  
 人ノ承諾ヲ得タル上ハ其承諾書ヲ添始審裁判所へ出訴

スルヲ得  
 但支廳管内ニアル治安裁判所ノ裁判ニ對スル控訴ニ  
 於ケルモ本文ト同シ  
 右告示候事

甲第三號 六月廿九日

本年六月第二十號布告ヲ以テ裁判所一覽表中改正相成候  
 ニ付本年當省甲第一號告示治安裁判所管轄區郡分管表  
 中別紙之通増補改正候條此旨告示候事  
 土浦治安裁判所管内へ左ノ二行ヲ追加ス  
 筑波郡ノ内  
 下妻治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓  
 土浦治安裁判所ノ次へ左ノ三行ヲ増補ス

下妻治安裁判所

筑波郡ノ内

西高野村	吉沼村	高道祖村
宮崎治安裁判所管内那珂郡ノ内へ左ノ十六行ヲ追加ス	城ヶ崎町	田吉村
恒久村	本南方村	本北方村
那司分村	郷南方村	郷北方村
熊野村	鏡洲村	加江田村
折生迫村	内海村	板敷村
飯本町	肥今町	楠原村
肥野方村	星倉村	戸高村
吉野方村	西辨分村	平野村
隈谷村	橋ノ口村	塚田村
油津村	毛吉田村	中村
萩ノ峯村		

上方村	下方村	脇元村
瀨上村	津屋野村	贊波村
谷ノ口村	北河内村	郷ノ原村
大藤村	東辨分村	松永村
殿所村	益安村	平山村
風田村	宮ノ浦村	富士村
伊比井村	酒谷村	大窪村

宮崎都城兩治安裁判所管内諸縣郡ノ北諸縣郡ト改正

甲第四號 七月十一日

富山始審裁判所來ル十六日開廳ス  
右告示候事

甲第五號 七月十三日

佐賀始審裁判所來八月一日開廳ス  
右告示候事

甲第六號 七月二十日

宮崎始審裁判所來八月一日開廳ス  
右告示候事

甲第七號 八月八日

和歌山始審裁判所管内田邊支廳本月十六日ヨリ開廳ス  
右告示候事

○三 甲第八號 八月十一日

岐阜始審裁判所管内高山支廳本月十五日ヨリ開廳ス  
右告示候事

○ 甲第九號 八月十五日

山口始審裁判所管内赤間關支廳并ニ千葉始審裁判所管内木更津支廳來九月一日開廳ス  
右告示候事

○ 甲第十號 八月廿五日

長崎始審裁判所管内平戸支廳并ニ仙臺始審裁判所管内石巻支廳來九月一日開廳ス  
右告示候事

○ 甲第十一號 九月五日

長崎始審裁判所管内福江支廳並ニ鹿兒島始審裁判所管内大嶋支廳本月十五日開廳ス  
右告示候事

○ 甲第十二號 九月十二日

秋田始審裁判所管内大曲支廳本月二十日ヨリ開廳ス  
右告示候事

○ 甲第十三號 十二月廿二日

秋田始審裁判所管内大館治安裁判所來明治十七年一月四日ヨリ開廳ス

一三

二三 右 指示候事

丙 號ノ部

丙 第一號 三月十二日

大 審 院  
裁 判 所  
警 視 廳  
府 縣 東京府  
ヲ 除ク

刑事裁判上在本邦外國公使館ニ備ハレタル内國人ニ對  
シ發スヘキ令狀ハ明治七年第百廿八號公達ニ據リ公使  
館ニテ唯諾ノ上執行セシムヘキハ勿論ニシテ其唯諾ヲ  
經ルノ手續ハ明治十四年第五十三號公達ノ旨モ有之  
付大審院并裁判所ハ其事柄ヲ明記シ當省ヘ申出指令ノ  
上其令狀ヲ發シ又警視廳府縣ニ於テハ其長官ヨリ外務

省ヘ申出右唯諾ヲ經ルノ手續キテ了シ令狀ヲ執行セシ  
ムヘキ儀ト心得ヘシ爲念此旨相達候事

但本文令狀執行者ハ專ラ明治七年第百二十八號公達  
ノ旨趣ニ據リ聊不都合ノ取計無之様厚ク注意セシム  
ヘシ

丙 第二號 五月十四日

大 審 院  
裁 判 所  
警 視 廳  
府 縣 東京府  
ヲ 除ク

三三

勅奏官華族并ニ有位帶動者犯罪取扱方ノ儀ニ付別紙ノ  
通太政官ヘ相伺候處朱書ノ通御指令相成候條爲心得此

四三

旨相違候事

但御指令文中十五年三月二十二日附御達ハ同年當省

丙第十一號達ト可相心得事

勅奏官華族等犯罪取扱方ノ儀伺

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶  
勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪取扱方ノ儀ニ  
付テハ明治十五年三月二十二日附テ以テ御達有之候處  
其罰金ニ處スヘキモノト雖モ或ハ本人ヲ出廷セシムル  
場合モ有之且又拘留ノ刑ニ處シ及ヒ罰金科料ヲ納完セ  
サル節ハ則換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ニ處スヘキ儀モ有  
之候條右本人ヲ出廷セシムル場合及ヒ換刑シテ輕禁錮  
又ハ拘留ノ刑ニ處スヘキ時ハ矢張其時々奏聞可致儀ト  
相心得可然哉此段相伺候也

明治十六年三月三十一日

司法卿大木喬任

太政大臣三條實美殿

朱書

伺ノ通

但十五年三月二十二日附其省ハ達中帶勳有位者トア  
ルハ勳六等以上從六位以上ヲ指シタル儀ト可相心得  
事

明治十六年五月八日

丙第三號 六月十一日

警視廳

府 縣東京府沖繩  
縣ヲ除ク

五三

明治十四年當省丙第十二號達各警察署并ニ警察分署所

在名稱區畫届出方ノ儀ハ以來廢合改稱新設等有之都度  
右達ノ雖形ニ照準左ノ箇條ヲ明記シ可届出儀ト心得ヘ  
シ此旨相達候事

但已ニ廢合改稱新設等有之モ未届出サル向ハ本文ニ  
準シ急速可届出事

一何年何月廢署或ハ何警察本分署へ合併或ハ新設或ハ  
改稱

一何年何月何警察署管轄某町某村ハ何警察署へ某町某  
村ハ何警察分署へ屬ス或ハ新設ニ係ルトキハ何警察  
署管内某町某村ト何警察分署管内某村某町トヲ管轄  
セシム

丙第四號 七月十四日

○

大 審 院  
裁 判 所  
警 視 廳  
府 縣 東京府  
ヲ 除ク

監會若クハ獄舎ニ在ル被告人へ送達スヘキ渾テノ書類  
ハ裁判所ヨリ監獄署へ送達ノ手續ヲ囑託シ該署ニ於テ  
ハ規則ニ從ヒ本人ニ送達シ令狀ハ其正本其他ハ送達書  
ノ一本ヲ裁判所へ返還スヘキ様取計ヘシ此旨相達候事  
但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ渾テ取消候  
事

○

丙第五號 八月六日

警 視 廳 府 縣 東京府  
ヲ 除ク



長野縣信濃國鹽澤村新田  
平民義三郎事

依 田 儀 作

右ノ者同縣平民荻原幸藏ヲ殺害逃走候ニ付捕縛方ノ儀  
明治十四年當省乙第三十號ヲ以テ相達置候處右ハ人違  
ヒノ旨長野縣ヨリ届出候條此旨相達候事

丙第六號 八月七日

府 縣東京府  
ヲ除ク

陸軍常備下士卒服役中ノ者違警罪ヲ犯シ其處分ヲ爲シ  
タル節ハ其人名罰科ヲ詳記シ其都度本人所管(隊附ナレ  
ハ該隊長)ニ通報可致此旨相達候事

丙第七號 十月十一日

警視廳 府 縣 東京憲兵本部

當省へ納付可相成雜收入金豫算調ノ儀毎年十月二十日  
限り差出候儀ト可心得此旨相達候事  
但十七年度分ハ本月三十日限可差出候事

丙第八號 十一月五日

警 視 廳  
府 縣

保釋責付中ノ被告人取締方心得ノ儀ニ付左ノ通各裁判  
所へ相達候條此旨爲心得相達候事

九三  
丁第三十一號

裁判所

保釋責付ヲ得タル被告人ハ左ノ取締條件ニ服從セシム  
 可キ儀ニ付保釋責付ヲ爲スノ際其旨ヲ被告人ニ豫知セ  
 シム可シ但其言渡書ノ紙尾ニ記載印刷スルモ妨ケナシ  
 第一條 治罪法第二十一條ニ從ヒ假住所ヲ定メ届置ク  
 可キトハ言ヲ待テス其裁判所ノ管轄地外ニ旅行スル  
 事ヲ得ス若シ已ム事得サル事由アルキハ其旨ヲ檢事  
 ニ申立テ許可ヲ受ク可シ  
 第二條 裁判所ノ管轄地内ト雖モ住所外ニ於テ一泊以  
 上滞在スルキハ滞在ノ場所ヲ其家族又ハ同居人ニ通  
 知シ置ク可シ  
 若シ同居人アラサルキハ其住所ノ地ノ戸長ニ届置ク  
 可シ

第三條 代言人辨護人又ハ代人トシテ法庭ニ出頭シ其  
 他議會集會等公然ノ場所ニ參會スルヲ得ス  
 第四條 治罪法第二百一十一條ニ適當スル者及ヒ前數條  
 ノ規則ニ背キタル者ハ治罪法第二百十六條第二項ニ  
 從ヒ保釋ヲ取消ス可シ其責付ヲ受ケタル者モ亦同シ  
 右相違候事

丙第九號 十一月十三日

大 審 院  
 裁 判 所  
 警 視 廳  
 府 縣 東 京 府  
ヲ除ク

刑事ニ付警察官ノ處分ニ屬スル費用ハ起訴ノ前後ニ拘

ハラス裁判費用ニ相立ヲサル者トス然レハ豫審判事ノ  
囑託ヲ受ケ豫審處分ヲ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス此  
旨爲心得相違候事

但本文ニ抵觸スル指令内訓ハ取消候事

○

丙第拾號 十二月十八日

警 視 廳  
府 縣  
憲 兵 本 部

雜收入金上納記并ニ明細書從前書式相廢シ左ノ雛形之  
通改正候條以來右ニ照準取調本人納証一同翌月十五日  
限リ可差出若シ收入無之ハ其旨可届出此旨相違候事  
但納証綴首尾ニ白紙ヲ用ヒ何年何月雜收入金上納証

何府縣ト記載可致候事

用紙十三行罫紙

上納記

何月分雜收入

贓贖追徵金

一金

但何地大藏省爲換方ハ何銀行又納金証書何葉ヲ以テ

内譯

贓 金

贓物賣拂代

科 料 金

金 金 金

右 上 納 候 也

明 治 何 年 何 月 何 日

官 姓 名 印

司 法 卿 宛

四四

用紙十三行罫紙

何年何月雜收入金明細書

一金

贖追徵金

內譯

金

贖金

內

金

國郡町村人名何々付納

金

同

金

贖物賣拂金

內

金

國郡町村人名何品何々付拂代

金

同

金

科料金

內

金

國郡町村人名何々付納

金

同

右之通候也

年月日

何府縣

首尾ニ白美濃紙ヲ用ヒ表紙ニ何年何月雜入金明細書何府縣ト記載スヘシ

丁號之部

丁第一號 一月十三日

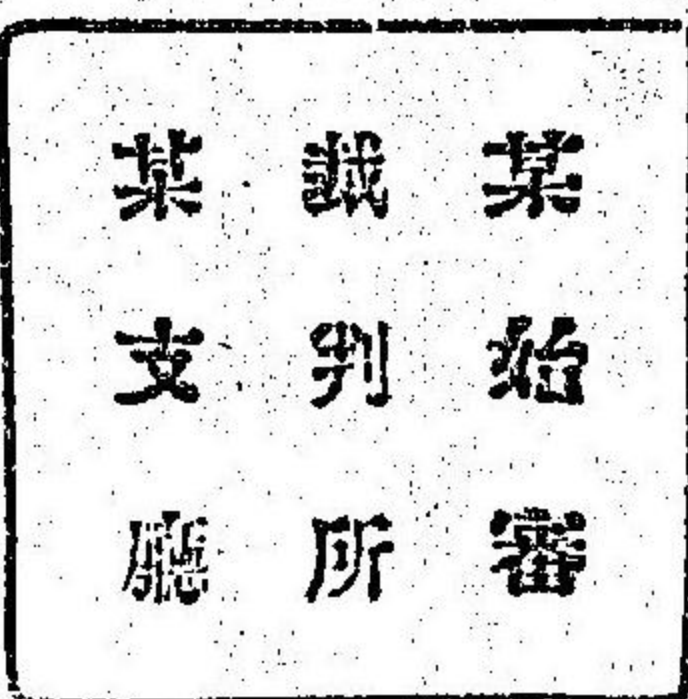
始審裁判所

支應ノ印章左ノ通相定候條各應ニ於テ調製シ印鑑ヲ以テ可届出此旨相達候事

印章雜形

五四

方由尺壹寸五分



始審裁判所支廳 各壹顆ヲ彫刻ス  
輕罪裁判所支廳

字體ハ篆書ヲ用ヒ認メ易キヲ要ス且文字ノ數ニ據リ或ハ(之印)等ノ文字ヲ刻スルモ妨ケナシ

丁第二號 一月十三日

始審裁判所  
治安裁判所

支廳管内ニ在ル治安裁判所(支廳所在)ニ於テ輕罪裁判所ヲ開クトキ用ユヘキ印章ハ明治十四年當省丁第廿七號達ノ例ニ據リ治安裁判所ニ於テ所轄支廳ノ印章ヲ調製

シ押用スル儀ト心得ヘシ此旨相達候事  
但彫刻ノ上ハ印鑑ヲ以テ届出ヘシ

丁第三號 一月十三日

裁判所

明治十四年十二月十二當省丁第廿四號達中始審裁判所ノ次行ヘ左ノ一行ヲ增加ス此旨相達候事

增加

始審裁判所支廳 三部

丁第四號 一月廿五日

裁判所

七四 裁判所ヨリ兵長ヘ對スル公文ノ儀ニ付明治十四年二月

八日及内訓置候趣モ有之候處自今右戸長へ對スル公文ニ於タルモ渾テ明治十四年當省丁第二十九號達ニ據リ取計ヘシ此旨相達候事

丁第五號 二月一日

大 審 院  
裁 判 所

刑事ニ付戸長ヲ經テ本人へ書類ヲ送達スヘキ際迄戸長ニ於テ使テ賃錢探替渡シヲ爲シ候儀モ有之候處自今右探替渡ヲ要スル節ハ一時裁判所ニ於テ探替置退ヲ本人ヨリ償却セシムヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事  
但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ取消候事

丁第六號 二月十三日

大 審 院  
裁 判 所

民事裁判上引合人トシテ出廷セシメタル官吏着席ノ儀ハ明治十五年丙第三十二號達ニ準シ取扱フ可シ此旨相達候事

但人民ヨリ官廳ニ係ル訴件ニ對シ引合人トナリ出廷シタル官吏着席ノ儀ニ付テハ本文ノ限ニ無之候事

丁第七號 二月十四日

大 審 院  
裁 判 所

官員勸懲調方之儀明治十年丙第三號同十一年丁第八號

○五

ヲ以テ相違置候處自今年二回十二月別紙離形ニ準シ取  
調翌月五日限リ該地可差立此旨相達候事

形

廳名明治何年 自何月至何月 官員勤怠表 支廳ハ某支廳ノ

廳名明治何年				自何月	至何月	官員	勤	怠	表	支廳ハ某支廳ノ					
何月何月何月何月何月何月何月				何月何月何月何月何月何月何月	何月何月何月何月何月何月何月	皆勤ノ例		引續二十五日以上病氣ノ例前年ヨリノ者モ此例ニ依ル							
湯治等ノ例				月々若干日數欠勤ノ總數二十五日以上ナル者ハ事故ヲ記ス		歸省ノ例			他廳へ赴任又ハ轉任ノ例		拜命又ハ着任ノ例				
皆勤ノ例				引續二十五日以上病氣ノ例前年ヨリノ者モ此例ニ依ル		湯治等ノ例		月々若干日數欠勤ノ總數二十五日以上ナル者ハ事故ヲ記ス		歸省ノ例		他廳へ赴任又ハ轉任ノ例		拜命又ハ着任ノ例	
				二	三	皆	二十	皆	全	何月何日某國某町村へ實地檢査トシテ出張何月何日着廳	判	事	官		
				一	六	七	皆	皆	全	何月何日ヨリ何病ニテ何月何日マテ某國某温泉へ	判	事	補		
			二	二	五	三	五十	八	全	持病又ハ性質虛弱等其重ナル部分ヲ略記スヘシ	書	記			
			一	一	三	三	七十	一	全	父母病氣看護トシテ何月何日出發何日着任	何	等	出	任	
			皆	皆	皆	皆	八十	七	皆	○	何	等	屬		
			皆	皆	皆	皆	八十	七	皆	○	何	等	屬		
			三	三	三	三	八十	一	皆	何月何日何廳へ赴任出發又ハ何官ニ轉ス	檢	事			
			何	何	何	何	何	何	何	○	何	等	屬		





丁第八號 二月廿二日

大審院  
裁判所

明治十五年丁第四十六號及丁第六十二號ヲ以テ長野縣  
下飯山第二十四國立銀行及大阪府下第二百二十六國立銀  
行鎮店ノ義ニ付相違置候處有ハ權利義務ニ付爭論無之  
詞訟ヲ云フ者ニシテ若シ爭論有之ニ於テハ其曲直ヲ裁  
判シ其執行ハ大藏省ノ處分ニ歸セシムヘキ筋ニ有之候  
條爲念此旨相違候事

一五  
丁第九號 二月廿四日

大審院

裁判所

明治十四年十月十當省甲第五號布達ニ據リ巡查ニ於テ警部代理ノ資格ヲ以テ取扱事件ニ付テハ裁判上渾テ警部同様ノ取扱ヲ爲スヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ取消候事

丁第十號 三月六日

大審院 裁判所

明治十四年十月廿八日出仕ヲ以テ勸解ノミニ使用スルハ不苦旨治安裁判所ニ相達置候處自今同裁判所ニ於テハ出仕ヲ以テ民事裁判ニモ從事爲致不苦候條此旨相達候事

丁第十一號 三月六日

大審院 裁判所

身代限分配加入訴ノ義ニ付別紙ノ通長野治安裁判所伺ニ對シ及指令候條爲心得此旨相達候事  
但該指令ニ抵觸スル從前ノ指令内訓ハ自今消滅シタル儀ト心得ヘシ

長野治安裁判所長伺 明治十六年二月十七日

治安裁判所ニ於テ金額百圓未滿ノ訴件身代限處分中金額百圓以上ノ債主其分配加入ヲ始審裁判所ニ出訴シ其權義確定セシ后該件ヲ交付シ來タルヲ以治安裁判所ハ之ヲ併セ其處分ヲ爲ス右治安裁判所ニ於テ身代限ノ處

分ヲ受クル原被告ハ他ノ債主ヨリ始審裁判所へ金額百圓以上ノ訴ヲ爲セシトテ知リ得サル以前ニ在テハ始審所ヨリ金額百圓以上ノ事件ヲ交付サルハ又ハ原告ハ他ニ分配加入ノ事件アルト申述ヲ聽クニ非サレハ他ニ分配加入ノ訴ノ之レナキ者ト爲シ期ニ至リ分配處分濟ノ後始審廳ヨリ該件ノ到達スル如キハ多少官民ノ手數錯雜スルノミナラス隨テ費用ヲ要ス前顯ノ場合金額百圓未滿ノ訴件治安裁判所ニ於テ身代限り處分中同負債者へ掛リ其分配加入ノ訴ヲ爲サント欲スル者ハ其處分ヲナス治安裁判所へ直ニ出訴セシメ其治安裁判所ハ該分配事件ニ限リ金額百圓以上ト雖モ都テ之ヲ受理シ判決ヲ與フヘキハ之ヲ與ヘ而テ該裁判權ハ始審裁判所ニ於テ裁判セシモノト同一ト爲シ其裁判不服ナルトハ直ニ上等ナル控訴裁判所へ控訴スル權ヲ有セシメ

ナハ實際便益不少ノミナラス明治十四年第八十三號御布告ノ期限ニモ敢テ抵觸セサル義ト被考候條治安裁判所ニ於テハ身代限り分配加入ノ訴ニ限リ金額百圓以上ト雖モ受理審判致不苦哉此段相伺候至急何分ノ御指令奉仰候也

指令 明治十六年三月五日

伺ノ趣身代限り分配加入ノ件ハ金額ノ多寡ニ拘ハラヌ明治七年第七十一號御布告揭示案ノ旨趣ニ依リ身代限り處分ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之レヲ受理スヘシ若シ其事件裁判ヲ要スルニ至ルルハ明治十四年第八十三號御布告ノ權限ニ照シ之ヲ管轄裁判所ニ送附シ其裁判ヲ受シメタル上身代限り爲シタル裁判所ニテ分配ヲ爲スヘキモノトス

丁第十二號 三月十四日

大審院  
裁判所

裁判上徴收スル金銭書記局ヨリ會計課へ授受ノ際若シ  
封印ノ儘附托スヘキモノアル時ハ書記會計主任立會面  
前ニテ篤ト員數ヲ調査シ合封印ノ上授受ノ手續可致此  
旨相達候事  
但會計課ヨリ請取候節モ本條ノ手續ニヨリ開封ノ上  
請取可シ

丁第十三號 三月十九日

裁判所

始審裁判所ニ於テ重罪裁判所ヲ開クキノ手續等ニ付本  
年一月第七十二號ヲ以テ内訓ニ及置候處其重罪事件表  
ニ係ル事實ノ探討若クハ此ニ關スル景況ノ通報等ハ右  
始審裁判所檢事ヲシテ其取調ヲ爲サシムルモ總テ是迄  
之通治罪法第七十六條并明治十四年當省丁第三十四號  
達ニ據リ控訴裁判所檢事長ニ於テ之ヲ調成シ差出スヘ  
キ事ト心得ヘシ爲念此旨相達候事

丁第十四號 四月十二日

控訴裁判所  
始審裁判所

重罪裁判所之取扱ニ係ル各刑ノ執行及裁判費用徴收等  
之各條ハ明治十五年一月當省丁第五號達檢事處分第二

表欄外ニ掲載アル執行以下各條之書例ニ據リ舊法處斷  
ハ實際決行ノ刑名ヲ掲ケ其下毎年一月ヨリ十二月マテ  
ヨ人員ヲ記スルノ書例ノ如シ  
右ニ係ル人員及ヒ件數ヲ取調翌年二月マテニ差出スヘ  
シ此旨相達候事

但昨十五年分ハ速ニ取調ヘ差出スヘシ又昨年ノ處分  
表一同既ニ進達候分ハ更ニ取調ニ及ハス

○

丁第十五號 四月廿七日

大 審 院  
裁 判 所

明治八年第四百四十八號公達海軍退隱令并ニ明治九年第  
九十九號公達陸軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル元軍人及  
其扶助料ヲ有スル寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪若シハ停

止ノ處分ヲ受ケ并ニ該恩給ヲ有スル軍人ニシテ治罪法  
第二百七十三條ニ據リ公權停止ノ處分ヲ受ケタル者ア  
ルハ其都度直ニ大藏省ヘ通知可致此旨相達候事  
但新法實施以後是迄本文ノ處分ヲ受ケタル者有之候  
ハ、其旨直ニ大藏省ヘ通知可致事

○

丁第十六號 五月一日

大 審 院  
裁 判 所

各廳每年十二月三十一日現在員明細表別紙離形ニ準シ  
取調翌月十日限リ可差出此旨相達候事  
但明治十五年十二月三十一日現在員明細表モ右離形  
ニ準シ至急取調可差出事



總計		○	何	何
何百圓	何百圓		人	人
			平民	士族
			何人	何人
			何人	何人
			何人	何人

取調心得

- 一 新任轉任昇等増俸免官等ハ辭令書ノ日付ニ係ハラヌ  
本人拜受ノ日ヲ以テ取捨スヘシ
- 一 明治十五年十二月三十一日現在員ハ本年一月第貳號  
布告ヲ以テ裁判所ノ位置及區畫改正ノ際舊廳ノ事務  
ヲ受ケ繼キタル廳ニテ取調フヘシ
- 一 始審裁判所本支廳内ニアル治安裁判所詰人員ハ其本  
支廳トモ各別表ニ取調フヘシ
- 一 甲廳ヨリ乙廳詰兼務ノ者乙廳ニ於テハ各欄内朱字ニ  
テ記載スヘシ兼任檢事補等ノ記載方モ亦之ニ倣フ

一 俸給ハ總テ月給額ヲ記載スヘシ雇等ノ日給ハ一ヶ月  
日(三十)ニ積算シ其額ト日給額トヲ列記スヘシ

一 分課ハ雇員ニ至ル迄詳細ニ記載スヘシ尤豫メ主掌ヲ  
定メス輪轉事務ヲ執ル向ハ分課欄内ヘ其旨ヲ記載ス  
ヘシ

一 甲廳ニテ乙廳詰命セラレ赴任セサルモノハ甲廳ニ於  
テ總計ノ次ヘ一欄ヲ設ケ記載シ分課欄内ヘ「某廳ヘ赴  
任前」ト記載スヘシ乙廳ニ於テハ在勤ノ通知ヲ得ルト  
雖モ其詳細ヲ記シ難キニ付總計ノ次ヘ官氏名及某廳  
ヨリ未着任ノ旨ヲ記載スヘシ

○

丁第十七號 四月三十日



裁判所

明治十三年四月丁第七號達本省處務時限之儀ハ詮議之次第有之取消候條此旨相違候事

○

丁第十八號 五月廿四日

大審院

裁判所

義務ノ證書ニ某代理某ト代人ノ名ヲ以テ捺印結約シタル者ハ權利者ニ於テ此證書ヲ提供シ出訴スルニハ其本人ヲ相手取ル固ヨリ當然ナリト雖モ便宜ニ隨ヒ記名捺印シタル代人ヲ相手取ルテアルモ必ス棄却スルヲ要セズ他ノ本人又ハ代人ヲ引合人トシテ召喚シ俱ニ之カ答辭ヲ爲サシメ被告者ノ義務ニ歸スルキハ被告者ヲシテ

負擔セシメ引合人ノ義務ニ歸スルニ於テハ引合人ヲシテ負擔セシムル權相當ノ裁判ヲ爲シ與フヘキ筋ニ有之候條豫テ心得モ可有之候得共爲念此旨相違候事

○

丁第十九號 五月廿五日

大審院

裁判所

福島縣須賀川第百八國立銀行今般鎖店申付ヲレ大藏省ニ於テ國立銀行條例ニ據リ處分方取扱相成候ニ付テハ該銀行本支店又ハ出張所ニ對シ出訴候者ニシテ權理義務ニ付爭論無之者ハ直ニ同省ノ處分ニ歸セシムヘク若シ爭論有之ニ於テハ其曲直ヲ裁判シ其執行ヲシテ同省ノ處分ニ歸セシムヘキ筋ニ候條爲念得此旨相違候事

丁第二十號 六月一日

大 審 院  
裁 判 所

本年第二十二號公達ニ付驛遞局ニ於テ發賣相成候官報  
購入ノ部數左ノ通相定メ候條此旨相達候事

但購入金員ハ大審院東京控訴裁判所ヲ除キ各廳定額  
内ヲ以テ支拂ヘシ

大 審 院 四 部 內 壹 部 會 計 課

控 訴 裁 判 所 四 部 同

始 審 裁 判 所 三 部 同

同 支 廳 三 部 同

治 安 裁 判 所 二 部 同

丁第二十一號 七月五日

大 審 院  
裁 判 所

明治十四年 月 十二 第七十五號公布西洋形船々長運轉手機  
關手免狀規則ニ據リ免狀ヲ有スル者罪ヲ犯シ輕罪以上  
ノ刑ニ處シタル節ハ刑名並宣告ノ月日ヲ詳記シ其都度  
直ニ農商務省へ通牒スヘシ此旨相達候事

丁第二十二號 七月廿四日

大 審 院  
裁 判 所

布告布達施行期限ノ儀ニ付太政官ヨリ別紙ノ通御達有

之候條此旨相違候事

別紙

司法省

別紙内務省伺へ朱書ノ通指令ニ及ヒ候條爲心得此旨相

違候事

明治十六年七月十七日

太政大臣三條實美

別紙 布告布達施行期限ノ義ニ付伺

布告布達施行期限ノ義ニ付別紙寫ノ通函館縣令時任爲  
基ヨリ伺出右與尻郡ノ義ハ本郡役所ヲ隔ツ一孤島ニシ  
テ冬春ニ至リテハ海路危險ノ爲メ航通相絶候次第モ有  
之趣ニ付實際他郡ト同視難致場所ト被存候條申出ノ通  
聞届候條致度別紙圖面一葉之略相添此段相伺候也

明治十六年六月廿一日

内務卿山田顯義

太政大臣三條實美殿

追テ本文御允可ノ上ハ以後他府縣ヨリ同様ノ義申出  
候節ハ當省限ヲ取計候様致シ度添テ此段相伺候也

朱書

伺ノ通

但遣書ノ趣ハ難聞届候事

明治十六年七月十七日

別紙寫

布告布達施行期限ノ義ニ付伺

布告布達施行期限ノ儀今般第十七號布告ヲ以テ制定相  
成候處其第一條第四項ニ凡島地ハ所轄郡役所ニ到達ノ  
翌日ヨリ起算スト有之然ルヲ當管下久遠郡役所所轄與  
尻郡ノ儀ハ本郡ヨリ十五海里ヲ隔テマル一孤島ニシテ  
常ニ小艇ヲ泛へ往復ニ便スルヲ以テ晴朗順風ノ日ニ在

テハ數時間ニシテ達スルヲ得ルト雖モ偶風浪アルニ際  
シテハ數日阻滯スルトモ往々有之殊ニ冬春二季ニ至リ  
テハ海路危險ノ爲メ從來十一月ヨリ春彼岸マテハ航通  
相絶候次第ニテ實際他郡ト同一視難致場所ニ付該島ニ  
限リ戶長役場ヘ到達ノ翌日ヨリ起算候様仕度爲御參考  
別紙航路略圖之略相添此段相伺候也

明治十六年六月一日

函館縣令時任爲基

内務卿山田顯義殿

丁第貳拾三號 九月廿一日

大 審 院  
裁 判 所

今般陸軍治罪法施行相成候ニ付左ノ通陸軍卿ヨリ照會

有之候條爲心得此旨相達候事  
已決重罪囚其他裁判宣告ニ依リ軍籍ヲ脱シタル者ト雖  
モ犯罪之レ有ル時ハ舊慣ニ據リ軍衛ニ於テ審判致來候  
處今般陸軍治罪法御頒布ニ付テハ特例アルモノヲ除ノ  
外ハ軍衛ニ於テ審判シ得ヘカラサル者ニ有之候間右已  
決囚ニシテ重輕罪ヲ犯ス者等有之候時ハ地方管轄裁判  
所ニ送付セシメ候間豫メ御達置相成度此段及御照會候  
也

陸軍卿代理

明治十六年九月十三日 參事院議長山縣有朋

司法卿大木喬任殿

退テ自今本文ノ如キ罪囚ハ悉ク地方監獄ニ交付ノ見  
込ニ有之候此段申添候也

丁第二十四號 九月廿五日

大 審 院  
裁 判 所

布告布達施行期限ノ儀ニ付内務卿伺ニ對シ左ノ通御指  
令相成候趣ニ有之候條此旨相達候事

布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限ノ儀ニ付島根縣令並ニ鹿兒島縣令ヨ  
リ夫々別紙ノ通伺出ハ鹿兒島縣第二條何レモ絶海ノ島嶼  
ヨシテ每島地ニ郡役所ノ設置無之內地又ハ他島郡役所  
ヨリ管轄候儀ニテ他ノ郡制ト同一視難致場所ト被存候  
尤本件同様ノ儀ニ付テハ曩ニ函館縣具狀ニ依リ經伺ノ  
上御許可相成候適例モ有之旁此段相伺候條至急御裁可

有之度候也

明治十六年八月二十日

内務卿山田顯義

太政大臣三條實美殿

御指令

伺ノ趣戶長役場到達ノ翌日ヨリ起算スル儀ト可相心得

事

明治十六年九月十八日

別紙

布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限制定ノ儀本年第十七號ヲ以テ公布相  
成候處有公布第一條中ニ凡ソ嶋地ハ所轄郡役所ニ到達  
ノ翌日ヨリ起算スル有之候處管下隠岐國海士知夫ノ兩  
郡ハ所轄郡役所ト隔海ノ地ニシテ數日間航海難相成事

毎ニ有之候右兩郡ノ如キハ如何相心得可然哉至急何分  
ノ御指揮有之度此段相伺候也

明治十六年七月十四日

縣令境二郎代理

島根縣大書記官星野輝賢

內務卿山田顯義殿

布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

第一條 本年五月第十七號布告ヲ以テ布告布達施行期限  
制定セラレ候處其第一條第三項ニ凡島地ハ所轄郡役所  
ニ到達ノ翌日ヨリ起算スト有之本縣之儀ハ島嶼殊ニ多  
ク熊毛郡種子島敷設郡屋久島等ハ海路數十里ヲ隔ツト  
雖用每郡々役所ヲ設置シ難キヲ以テ在鹿兒島郡役所ニ  
於テ之ヲ所轄セシム又在知覽郡役所々轄川邊郡ノ十島

即チ硫黃島竹島黑島口之島臥蛇島平島中ノ島惡石島歐  
訪ノ瀬島寶島及ヒ在大島郡役所々轄徳喜界沖永良部與  
論ノ四島ノ如キハ皆ナ郡役所々在地ヲ距ル遠キハ七十  
里近キモ拾里ヲ隔テ各所ニ基布シ又在川内郡役所々轄  
甌島郡ノ儀モ陸地ヲ距ル殆ト拾里出水郡長島モ亦々絶  
海ノ島地ニシテ往復不便ノ地ニ有之故ニ前顯ノ如ク施  
行期限ヲ起算スルニ所轄郡役所到達ノ翌日ヨリスルキ  
ハ未ダ法律ノ該地ニ達セサルニ早ク既ニ實施ノ日トナ  
リ若他日之ヲ論スルニ當テハ恰モ立法ノ既往ニ遡ルカ  
如キ姿ニ相成島民等ノ不幸實ニ難賦止儀ト存ラレ候條  
右大島郡大島ヲ除ク其他ノ島地ハ到達ノ日數ヲ定メス  
現ニ該島戸長役場ニ到達ノ翌日ヨリ起算シ可然哉  
第二條 凡島地ハ所轄郡役所ニ到達ノ翌日ヨリ起算ス

ト有之候ニ付其到達日數無論定メサル儀ト心得可然哉  
右兩條相伺候條至急何分ノ御指揮相成度此段相伺候也

明治十六年七月十四日 鹿兒島縣令渡邊千秋

內務卿山田顯義殿

○  
丁第二十五號 九月廿六日

大 審 院

裁 判 所

陸軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル者及ヒ扶助料ヲ受ル寡  
婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪ノ處分ヲ爲スルハ恩給登錄寫  
帖ヲ收奪シ宣告文ノ寫相添其都度速ニ當省へ差出ス可  
シ此旨相達候事

○  
丁第二十六號 九月廿八日

始 審 裁 判 所

豫審事件中被告人ノ屬籍氏名等分明ナラスシテ豫審終  
結ノ言渡ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テ期滿免除ニ至ル迄  
猶ホ豫審判事ノ手ニ留置シモノハ通常ノ未決件數ト混  
淆セサル爲メ明治十四年丁第三十四號達第二號豫審既  
決未決事件表中未濟ノ下及ヒ明治十五年ノ丁第五號達  
豫審第一表末段ニ於テ(豫審中止)ノ一區ヲ設ケ其件數ノ  
ニテ記入スヘシ此旨相達候事

○  
丁第二十七號 十月十三日

裁 判 所

明治十四年當省丁第八號ヲ以テ後備軍編入ノ者郷里ニ

在テ罪ヲ犯シタルキハ所轄鎮臺營所へ照會致ス可キ旨  
相違置候處今般陸軍卿ヨリ照會ノ趣有之候ニ付右達ハ  
取消候條此旨相違候事

丁 第二十八號 十月廿二日

裁 判 所

重輕罪登記簿之義ニ付テハ明治十五年丁第三十一號并  
同年丁第六十號ヲ以テ相違置候處猶ホ一層注意ノ爲メ  
左之通り登記簿徵集簡條并取扱順序増補候條自今右ニ  
準シ各表式ノ材料ニ適應スヘキ様鄭重ニ記載スヘシ此  
旨相違候事

重輕罪登記簿書例并取扱順序

重輕罪公判登記簿徵集簡條書

此ニ載スル各條ハ明治十五年丁第六十號簡條書ノ退  
加ナルカ故ニ両書共ニ對照參酌スヘキ者トス

第一條

登記簿ハ言渡ノ度毎ニ必ス調成スヘシ妄リニ其機ヲ失  
シ上告後大審院等へ謄寫ヲ要スル如キ繁雜ヲ生スル工  
勿レ(言渡アル毎ニ必ス記載シ)重罪裁判所ノ處斷ニ係ル  
輕罪已下ノ者ハ輕罪ノ簿式ニ準シ別冊ト爲シ其屬ノ本  
簿ニ屬スヘシ(此輕罪已下ノ者ハ單ニ輕罪トナリタル者ニ  
非メ若シ重罪ヲ減シテ重罪ト減シテ輕罪トナリタル者ニ  
ル者ハ重罪ノ簿札ニ登記スル者トス)輕罪裁判所ノ處斷  
ニ係ル違警罪モ亦同シ

重罪ニ係ル者法律上減輕ニ因リ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬  
シタル時ト雖モ亦重罪登記簿ニ録シ別冊ト爲シ其應ノ  
本簿ニ屬スヘシ(明治十五年當省丁  
第四拾五號達參看)



諸罰則等ニ係ル者(明治十五年丁第六十號)ハ別冊ヲ調成  
 スヘキ者ニ付若シ重罪及輕罪ニ附帶シ又ハ俱發セシ犯  
 則者モ亦別ニ調成スヘシ唯ニ重輕罪ノ簿札ニ合載シ犯  
 則簿札ヲ省略ス可ラス必ス兩簿ヲ調成シ其犯則簿中受  
 理欄内ニ重輕罪簿札何號ト同伴同人ナルヲ附記スヘ  
 シ  
 各簿札ノ番號ハ毎年一月始メテ公判言渡ニ係ル者ヲ以  
 テ第一號ト爲シ各簿次ヲ逐テ其年十二月最終ノ言渡マ  
 テ繼續スヘキ者トス故ニ重罪ニ在テ三箇月ツ、蒐集進  
 達ヌルコ方リ一月ヨリ三月マテノ分ニシテ假令ハ壹號  
 ヨリ千八十三號ニ至ル時ハ其次四月分ノ首號ハ千八十  
 四號トナルヲ例トス總テ各枚各號即チ每人其號ヲ各別  
 ニ記シ此最終ノ番號ヲ以テ其年裁判言渡人員ノ全數ニ

應スヘキ者トス但件數記載方(徵集箇條書)ト混ス可ラス  
 若シ各廳ノ受理又ハ各掛ヘ配當等ノ順序ニ依ル記號ノ  
 如キハ各簿欄外適宜ノ邊ニ記スルモ亦妨ケナシ  
 簿札圖式ノ説明ハ從前達書(明治十五年丁第三十一號中  
 第拾條書)中ニ在リト雖モ往々料紙ノ大小及各欄ノ位地  
 等大差違アリテ照査上不便ナレハ將來ハ成ルヘク本省  
 印刷ノ料紙ヲ用ヒ又ハ之ニ準據スヘシ  
 若シ受理スト雖モ言渡前ニシテ翌年ニ廻スヘキ未決ノ  
 者アル時ハ年末簿冊進達ノ際左ノ箇條ニ準シ別紙ニ書  
 シ共ニ差出スヘキ者トス

何年十二月三十一日調

未決 件數 若干  
 人員 若干

第二條

犯罪欄内ニハ刑法各條若クハ何項何截ト記スルノ外尙  
\*犯罪ノ性質ヲ簡明ニ記スヘシ今姑ク重罪登記簿ニ就  
テ本欄ノ一例ヲ左ニ示ス輕罪モ亦之ニ準スヘシ(十五年  
拾一號達重輕罪第一)  
表第一號重輕罪參看)

以下文中「」ノ印ハ朱書

犯 「明治十五年一月二日」  
「何」始審裁判所管内ニテ

罪 「刑法第百四條ノ罪ヲ犯ス」  
「若クハ刑法第三百六拾六條俱發」

前條火ヲ放云云ハ處斷ニ係ル正條ニシテ若クハ刑法云  
々ハ俱發アリシ時ノ例トス俱發ニ係ル刑法云云ノ文字  
ハ犯罪ノ本文ヨリ二字闕字ヌヘシ尤モ言渡ノ欄ト照應  
スヘキ者ナルヲ故ニ殊ニ注意シテ實際ノ事由ヲ記スヘ  
シ(次ニ舉ル登記簿犯)  
罪ノ欄朱書參看)

此他若シ被告人中尊屬ノ卑幼ニ對シ卑幼ノ尊屬ニ對ス  
ルノ類子ト孫トノ混雜ヲ防キ祖父ト祖母ト父ト母トノ  
混合ヲ防キ又ハ成ルヘク養父及養母ヲ區別シ徒ニ祖父  
母及父母又ハ子孫ト一筆ニ記スルコトナク且養實父ノ混  
雜等ヲ爲ス勿レ(刑法第十章  
親屬例參看)

第三條

受理欄内ハ重罪ニ在テハ豫審判事ノ判決會議局ノ判決  
(治罪法第三百七拾)大審院ノ判決(同)輕罪ハ檢察官云云  
豫審判事ノ判決會議局ノ判決(治罪法第三百四)大審院ノ  
判決ヲ區別記載シ又ハ訟廷内ノ犯罪ヲ區分スヘシ  
又大審院ニ於テ他廳ノ言渡ヲ破毀シ本廳ニ移サレタル  
件及管轄ノ訴ニ因リ之ヲ定メタル件ノ如キ大審院ノ判  
決ノ下ニ(破毀ノ上又ハ)其事由ヲ簡略ニ附記スヘシ

又他廳ヨリ囑託アリタル時ハ定式ノ外何廳何々ヨリ囑託ノ事ヲ簡單ニ附記スヘシ假令ハ何年月日何裁判所ニテ檢察官云云ニ因リ受理ノ後何年月日本廳ヘ囑託ト記スヘシ但本件ノ如キハ之ヲ囑託シタル廳ニテハ登記セズ其全部ノ囑託ヲ受ケタル廳ニテ記スヘキ者トス一部ノ囑託ニ止ル者ハ此限ニ非ス（一部分或ハ若シ宣告書ノルモ記スルニ及ハス凡テ此類ハ原廳ニ在テ記スヘキ者トフ）此欄ニ於テハ明治十五年丁第六十號簡條書第二條ニ照シ同伴ノ記載ニ注意シ件數ヲ明晰スヘシ一年間一人ニシテ數回言渡ヲ受ケン者モ亦前何號同人ト記ス（第四條及五條說明參看）又一件五人アリ内三人ハ豫審判事ノ判決ニ因リ内二人ハ故障アリテ後會議局ノ判決ニ因ルガ如キ固ヨリ同一

ノ件ナリト雖モ必ス實際ニ從ヒ之ヲ分テ次ニ舉クヘキ受理ノ欄ニ於テ前何號ト同伴ナルヲ記スヘシ唯前ノ一方ニ合載シ次ノ一方ヲ省略スル勿レ又此欄ノ末ニ裁判時間ヲ計算登記スヘシ即チ欄中年月日ヨリ言渡ノ欄年月日マテヲ通算シ假令ハ言渡マテ一箇月何日又ハ一年何箇月ト書スルノ類ナリ

第四條

前科欄内ハ罪名ヲ略記シ及刑ノ言渡ハ勿論無罪或ハ免訴又ハ一年間言渡ノ重複ニ係ル者ニ至ルマテ既ニ裁判ヲ經由セシ者ハ悉ク其年月日ニ從ヒ舉ル者トス前科ノ言渡ニ對シ上訴セシ者ハ上訴年月日ヲ遺漏スル勿レ若再度ノ上訴アリシ者ノ如キハ前科ニ對スル言渡ノ次ニ上訴年月日ヲ附シ再ヒ後ノ上訴項内ニ記スヘシ

第五條

官渡欄内ハ官渡ノ事實ニ從ヒ刑名及其期限金額附加刑等ヲ擧ク是亦犯罪及前科年齡等ト照應スヘキ者トス故ニ加重若クハ減輕ノ事由等尤明晰ナルヲ要ス假令ハ刑法第九十一條(九二)ニ該ルヲ以テ一等附加刑法第八拾五條(八六)又ハ第八拾九條ニ據リ何等減ト書スルヲ例トス若シ數罪俱發等ノ者ニシテ既ニ犯罪欄内ニ於テ刑法ノ各條ヲ列載セシ者アル時ハ此欄刑名ノ肩書ニ刑法ノ條目ヲ附シ前各條中何條ニ因テ處斷セシヲ示スヘシ若シ管轄違治罪法第二百七十五條豫審判事ニ送付スル言渡及罪ヲ論セズ懲治場ニ留置スル如キ遺漏ス可ラス又附加刑ヲ受ケシ者ハ監視ノ期限罰金ノ員數沒收物品ノ如キモ亦之ヲ區別記載スヘシ

又被告人ノ死去及被害者ノ棄權等總テ消滅セシ者ノ類ハ此欄内ニ類別シテ略記スヘシ又對審關席ノ區分ノ如キ脫漏セサルヲ要ス今本欄ノ一例ヲ左ニ示ス(次ノ簿札言渡)何年何月何日對審(若クハ關席)重禁錮何年(刑法第八十一條)言渡(附加)罰金何圓(又ハ刑法第九十二條)沒收何々(條ニ依リ一等加)若シ一罪前ニ發シ已ニ判決ヲ經テ餘罪後ニ發シ其輕ク若シシハ等シキハ之ヲ論セズ其重キ者ハ更ニ之ヲ論シ云云(刑法第九十二條)又ハ囚徒逃走(刑法第四百四十二條)ノ類ニシテ本年官渡ノ重複ニ係ル者ハ注意シ其事由ヲ簡明ニ附記スルヲ要ス(其一年間重複ニ注意スル者ハ受理又ハ前科)前條ニ係ル者ニ就キ言渡欄内ノ一例ヲ左ニ示ス

言「何年何月何日」  
重禁錮何年  
罰金何圓  
監視何月

此他舊法ニ從テ處斷セシ類ハ十五年六十號箇條書第三  
條ニ照スヘシ  
又前ニ渡リタル處輕ニシテ前後通算シ餘罪ヲ科ス  
若クハ等キニヨリ論セス

第六條

男女氏名欄内ハ既ニ簿式ニ掲載アル各目ニ照シ記スヘシ  
又一年間一人數向處斷ヲ經シ者ハ必ス氏名ノ傍ニ前何號同人ト附記ス可シ若シ其一人前回ニ於テ氏名ヲ詐稱シ次回ニ發覺セシ者ハ次回ノ簿中氏名ノ傍前何號同人前ハ偽名ト附記スヘシ

〔何重罪裁判所(又ハ輕罪)〕

重罪登記簿

二

號

犯 〔何〕年〔何〕月〔何〕日 〔何〕始審裁判所管内ニテ 刑法第〔三百〕條ノ罪ヲ犯ス 〔人ヲ毆打創傷シ兩肢ヲ折リ篤疾ニ致ス〕 〔若シハ(第三百二十六條俱發)(第三百五十五條俱發)〕	受 〔何〕年〔何〕月〔何〕日 〔豫審判事ノ判決ニ因リ〕	前 〔第四條及五條說明參看〕	言 〔何〕年〔何〕月〔何〕日對審 〔輕懲役何年〕 〔(第五條各項參看)〕	上訴 年 月 日	証人等ノ人員 〔証人〕 二人 鑑定人 一人
					被告人ニ科セシ金〔何圓何錢〕 一官ニテ 擔當セシ金 給與セシ金
男 男女氏名 犯時已未婚子ノ有無 〔何〕族		前ノ言渡ニ付テノ上訴	教 〔何〕離妻子ナシ		果成ノ罪犯
女 女氏名 族			文 〔何〕字 〔廿五年〕 〔犯時職業〕 〔鍛冶〕	生國 〔何〕始 犯時 〔何〕始 住地 現住ノ地 〔何〕始	

〔掛判事又ハ補

氏

表紀掛書記ノ

重罪裁判所(又ハ輕罪)

<p>「年」何「月」何「日」</p> <p>始審裁判所管内ニテ</p> <p>法第「三百」條ノ罪ヲ犯ス</p> <p>毆打創傷シ兩肢ヲ折リ篤疾</p> <p>ス</p> <p>ハ(第三百二十六條俱發)</p> <p>「第三百五十五條俱發」</p>	<p>「何」年「何」月「何」日</p> <p>「豫審判事ノ判決ニ</p> <p>因リ」</p>	<p>受</p> <p>「豫審判事ノ判決ニ</p> <p>因リ」</p>	<p>前</p> <p>「第四條及五條說明參看」</p>
<p>「年」何「月」何「日」對審</p> <p>懲役何年</p> <p>「第五條各項參看」</p>	<p>男女氏名 犯時已未婚子ノ有無</p> <p>「何」族</p> <p>「何」離妻子ナシ</p>	<p>前ノ言渡ニ付テノ上訴</p> <p>年 月 日</p>	<p>生國 「何」始審裁判所管内</p> <p>國「何」</p> <p>村町</p> <p>犯時 住地 「何」始審裁判所管内</p> <p>國「何」</p> <p>村町</p> <p>現住ノ地 「何」始審裁判所</p> <p>國「何」</p> <p>村町</p>
<p>人員</p> <p>二人</p> <p>一人</p>	<p>一被告人ニ科セシ金「何圓何錢」</p> <p>擔當セシ金</p> <p>一官ニテ</p> <p>給與セシ金</p>	<p>犯罪ノ因由ト認知ノ條</p> <p>教 育 ノ 度</p> <p>「文」 犯時年齡</p> <p>「廿五年」</p> <p>「鍛冶」</p>	<p>果成ノ罪犯</p> <p>使用器物</p>

「掛判事又ハ補

氏 名

重罪登記簿 三三 號

〔何重罪裁判所又ハ輕罪〕

<p>犯                  〔何〕年〔何〕月〔何〕日                  〔何〕始審裁判所管内ニテ                  刑法第〔三百七十〕條ノ罪ヲ犯ス                  〔兇器ヲ攜帶シテ人ノ住居シタル                  邸宅ニ入り竊盜ヲナス〕</p>	<p>受                  〔何〕年〔何〕月〔何〕日                  〔大審院ノ判決ニ因                  リ〕〔破毀ノ上〕若シ                  シハ〔會議局云々〕</p>	<p>前                  〔何〕年〔何〕月〔何〕日                  何裁判所ニテ對審                  同上ノ科ニ因リ輕懲役                  監視</p>	
<p>言                  〔何〕年〔何〕月〔何〕日對審                  〔重禁錮何年 刑法第八十一條末                  項ニ依リ一等減〕                  〔附加罰金何圓                  監視何年〕</p>	<p>男女氏名 犯時已未婚子ノ有無                  〔何〕族                  女氏名 族                  〔何誰妻ナシ〕</p>	<p>〔文〕犯時年齡                  〔十五年〕                  〔十一月〕                  〔小作人〕                  〔何〕始</p>	
<p>生國 〔何〕始                  犯時 〔何〕始                  住地                  現住ノ地 〔何〕始</p>	<p>上訴 年 月 日</p>		
<p>證人等ノ人員                  〔證人 三人〕</p>	<p>一被告人ニ科セシ金〔何圓何錢〕                  一官ニテ 〔擔當セシ金                  給與セシ金〕</p>	<p>犯罪ノ因由ト認知ノ條</p>	<p>果成ノ罪犯</p>

〔掛判事又ハ補  
 表紀掛書記 氏



何重罪裁判所(又ハ輕罪)

<p>何年何月何日          「始審裁判所管内ニテ          法第「三百七十」條ノ罪ヲ犯ス          ヲ携帶シテ人ノ住居シタル          ニ入り竊盜ヲナメ」</p>	<p>「何年何月何日」          受 「大審院ノ判決ニ因          リ(破毀ノ上)若シ          シハ(會議局云々)」</p>	<p>「何年何月何日」          前          何裁判所ニテ對審          同上ノ科ニ因リ輕懲役何年          監視何月」</p>	
<p>何年何月何日「對審」          何年「刑法第八十一條末          項ニ依リ一等減」          罰金何圓          監視何年」</p>	<p>男女氏名 犯時已未婚子ノ有無          男氏名 「何」族          女氏名 族</p>	<p>「何誰妻ナシ」          教 育 度          文 字 知          犯時年齡          「十五年十一月」          犯時職業          「小作人」</p>	
<p>人員          三人」</p>	<p>一被告人ニ科セシ金「何圓何錢」          擔當セシ金          一官ニテ          給與セシ金</p>	<p>犯罪ノ因由ト認知ノ條</p>	<p>生國 「何」始審裁判所管内          國 「何」村町          犯時 住地 「何」始審裁判所管内          國 「何」村町          現住ノ地 「何」始審裁判所          國 「何」村町</p>
<p>果成ノ罪犯</p>		<p>使用器物</p>	

「掛判事又ハ補  
 氏 名  
 表紀掛書記ノ認印」

第七條

重罪及輕罪登記簿教育年齡以下各欄内ノ書例ハ渾テ明治十五年丁第三十一號登記簿中朱書ノ例ニ依ル尤モ職乘區分ノ如キ同號中重罪公判第九表第一欄ノ書例ニ據リ記スルヲ要ス

第八條

謀故殺及放火犯罪ノ因由欄内モ亦十五年丁第三十一號中重罪公判第十二表第一欄ノ書例ヲ參看シ務メテ簡明ニ事由ヲ記スヘシ  
此以下犯罪ノ成果ニ在テハ重罪公判第十二表第三欄使用器具ハ同第四欄書例ヲ參看スヘシ  
右各條ノ外若シ常例ニ準シ難キ者アル時ハ適宜ノ欄内又ハ欄外ニ其事由ヲ附記スヘシ

登記簿取扱順序

- 自今左ノ箇條ニ準シ取調ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 登記簿原本ハ旨渡アル毎ニ公判掛ノ書記ニ於テ必ス其機ヲ失ハヌ該件ニ係ル被告人毎コ一枚ヲ調成シ之ヲ表紀掛ノ書記ニ交附スヘシ(箇條書增補第一)
- 一 表紀掛ニ於テ簿札ヲ交收スル時ハ其時日ニ從テ其番號ヲ附シ渾テ各欄ノ記載ヲ調査シ若シ錯誤ト認ムヘキ者アルモ妄ニ變更修飾ヲ加フルトナク勉メテ實際ノ事由ヲ擧クヘシ若シ犯罪及旨渡欄ト對シ解シ難キ者アル時ハ主任判事若クハ判事補ニ質スヘシ
- 一 調査終了ノ分ヨリ之ヲ謄寫シ謄寫スルコ從ヒ每葉欄外ニ掛判事或ハ判事補(掛二人以上ナレ)ノ姓名ヲ記シ表紀掛ノ書記認印スヘシ

一 重罪ハ三箇月輕罪ハ二箇月ツ、一冊トシテ進達ノ手續ヲナスヘシ

一 簿冊進達前裁判所長ニ於テ之ヲ通覽シ若シ連月又ハ連年ノ間被告人員ノ増減ニ於テ大差ヲ生シタル時其地方ノ景况即チ豐凶若クハ貿易ノ繁閑若クハ天災等ヨリ其増減ノ起因スルト認ムル者アレハ簡明ニ其理由ヲ具狀スルヲ明治十四年十二月第三十四號達表式欄外朱書ノ例ニ依ルヘシ

丁 第廿九號 十月廿三日

大 審 院  
裁 判 所

布告布達施行期限ノ儀ニ付太政官ヨリ左ノ通御達有之

候條此旨相達候事

司法省

別紙内務省伺へ朱書ノ通指令ニ及ヒ候條爲心得此旨相達候事

明治十六年十月十二日 太政大臣三條實美

(別紙) 布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限ノ儀ニ付山形縣令折田平内ヨリ別紙ノ通伺出候處該飛鳥三村ノ儀ハ陸地ヲ去ル十餘里以外ノ北海ニ孤在スル一小島嶼ニシテ其往復ハ小船ニヨルノ外無之故ヲ以テ風浪危險ノ場合ニ在テハ爲メニ通航數十日間ニ相絶候事往々有之趣ニ付テハ實際他ノ郡村ト同視難相成ハ露ニ函館縣伺ニ對シ御允許ノ儀ト同様ニ相考候間該島ニ限リ申出ノ通問屆候條致度依テ別紙

寫并ニ略圖添此段相伺候條至急仰御裁決候也

明治十六年九月十三日 内務卿山田顯義

太政大臣三條實美殿

(朱書) 伺ノ通

明治十六年十月十二日

(別紙寫) 布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限ノ儀本年第十七號ヲ以テ公布相成候處管下飽海郡役所々轄飛鳥浦村勝浦村法木村三ヶ村ノ如キハ該郡役所ヨリ陸路吹浦村ニ至リ同所ヨリ海上十里丁三十六ヲ隔テ北海ニ孤立スル一小島ニテ小船ニ依リ往復致候事故季候ニ寄風浪ノ爲メ數十日通航相絶候儀ニ往々有之布告布達期限内ニ施行難相成候間該戶長役場ニ到達ノ翌日ヨリ起算シ施行セシメ候條致度略圖

之略相添此段相伺候條何分ノ御指揮有之度候也

明治十六年八月十一日

山形縣令折田平内

内務卿山田顯義殿

丁第三十號 十月廿六日

大審院 裁判所

布告布達施行期限之儀ハ本年第十七號公布之旨モ有之候處沖繩縣之儀ハ該縣到達之翌日ヨリ十二日ヲ以テ施行期限トナシ且該縣管内那覇役所々轄ノ伊平屋島其他二島八重山島役所々轄ノ與那國島其他壹島并ニ宮古島役所々轄ノ多良間島之六島ハ該島到達ノ翌日ヨリ施行期限起算之儀該縣令ヨリ其筋へ開申有之御聞置相成候

旨通牒有之候條此旨相達候事

丁第三十一號 十一月五日

裁判所

保釋賣付ヲ得タル被告人ハ左ノ取締條件ニ服從セシム可キ儀ニ付保釋賣付ヲ爲スノ際其旨ヲ被告人ニ豫知セシム可シ但其言渡書ノ紙尾ニ記載印刷スルモ妨ケナシ  
第一條 治罪法第二十一條ニ從ヒ假住所ヲ定メ届置ク可キコトハ言ヲ待タヌ其裁判所ノ管轄地外ニ旅行スルコトヲ得ヌ若シ已ムヲ得サル事由アルキハ其旨ヲ檢事ニ申立テ許可ヲ受ク可シ

第二條 裁判所ノ管轄地内ト雖モ住所外ニ於テ一泊以上滞在スルキハ滞在ノ場所ヲ其家族又ハ同居人ニ通

知シ置ク可シ

若シ同居人アラサルハ其住所ノ地ノ戸長ニ届置ク可シ

第三條 代言人辨護人又ハ代人トシテ法庭ニ出頭シ其

他議會集會等公然ノ場所ニ參會スルヲ得ス

第四條 治罪法第百二十一條ニ適當スル者及ヒ前數條

ノ規則ニ背キタル者ハ治罪法第百十六條第二項ニ從ヒ保釋ヲ取消ス可シ其責付ヲ受ケタル者モ亦同シ

右相違候事

○

丁第三十二條 十一月八日

大 審 院

裁 判 所

華族ノ輩 位記ノ有無且戸主隱罪ヲ犯シ拘留シタル時ハ自今其院裁判所ヨリ直ニ宮内省へ通牒シ猶刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其宣告書ノ原本ヲ添へ是亦同様速ニ可致通牒此旨相違候事

○

丁第三十三號 十一月十六日

大 審 院

裁 判 所

本年第三十九號ヲ以テ刑法附則第四十九條改正ノ儀公布相成候ニ付テハ各管内ニ於テ專ラ實際消費スル費額ヲ量定シ豫メ金額ノ程限ヲ設ケ速ニ當省へ可伺出此旨相違候事

○

八九 丁第三十四號 十一月三十日

大審院 裁判所

布告布達施行期限ノ儀ニ付太政官ヨリ左ノ通御達有之  
候條此旨相達候事

司法省

別紙内務省伺へ朱書ノ通指令ニ及ヒ候條爲心得此旨相  
達候事

明治十六年十一月二十二日太政大臣三條實美

(別紙) 布告布達施行期限ノ儀ニ付伺

布告布達施行期限ノ儀ニ付別紙寫ノ通山口縣ヨリ伺出  
右取調候處本年七月十七日伺濟函館縣管下奥尻郡一孤  
島ノ狀況ト均一ニ相見へ實際無餘儀次第ト被存候間該

島ニ限リ申出ノ通開屆候様致度別紙圖面相添此段相伺  
候也

明治十六年十月十六日

内務卿山田顯義

太政大臣三條實美殿

(朱書) 伺之通

明治十六年十一月二十二日

(別紙寫) 布告布達施行期限之儀ニ付伺

本年第十七號布告ヲ以テ布告布達施行期限制定相成凡  
島地ハ所轄郡役所ニ到達ノ翌日ヨリ起算スヘキ筋ニ有  
之候處本縣下見島郡ノ儀ハ北海中一孤島ニシテ其地價  
戸數ノ僅少ナルヲ以テ郡區編制ノ節阿武郡ト合併シ役  
所ヲ同郡裁地ニ設置セリ然ルニ本地ヨリ海路十八里ヲ  
隔テ常ニ渡航自由ナラス殊ニ秋冬ノ氣節ニ向ヘハ風波

ノ平穩ヲ慮リ幸ニ航海候都合ニ付數十日間航行相絶候  
場合モ有之實際期日ヲ限リ施行不相成右ハ他郡ト難同  
視場所ニ候間何卒該島ニ限リ戸長役場へ到達ノ翌日ヨ  
リ起算候様御特許相成度別紙繪圖面相添之略此段相伺候  
也

明治十六年九月十七日

山口縣令代理

山口縣大書記官近藤幸正

内務卿山田顯義殿

〇

丁第三十五號 十二月十二日

大 審 院  
裁 判 所

明治十四年本省丁第七號達ニ依リ仕拂フヘキ費用ハ帳  
簿ノ寫取若シハ取寄方ヲ請願シタル者ヨリ徵收シ若又  
請願者ナシ裁判所ノ見込ヲ以テ寫取候ルハ原告人ヨリ  
取立其寫取若シハ差廻ヲ爲シタル役所へ差送ルヘキ儀  
ト可心得此旨相達候事

〇

丁第三十六號 十二月廿一日

大 審 院  
裁 判 所

布告布達施行期限ハ豫テ公布相成居候處新潟縣下越後  
國岩船郡ニ屬スル粟生島浦ノ儀ハ北海ノ一孤島ニシテ  
他ト同視難致場合モ有之ニ付其筋ヨリ該島ニ限リ戸長  
役場へ到達ノ日ヨリ施行期限起算致度トノ伺ニ對シ御



二〇一

閣下相成候旨次政官ヨリ被達候條此旨相達候事

○

丁第三十七號 十二月二十二日

大 審 院

裁 判 所

明治十四年當省丁第三十四號違治罪法表式第二號豫審  
既決未決事件表裏面記載例第二項左ノ通改正候條自今  
右ニ準シ調成スヘシ此旨相達候事

既濟未濟日數二月以上ノ者アラハ二月以上三月未滿三  
月以上六月未滿六月以上一年未滿ト記スヘシ其一年以  
上ニ及ツ者ハ一年毎ニ區別シテ記入シ未濟三月以上ニ  
及ツ者ハ其理由ヲ説明スヘキ者トス以下各表之ニ準ス  
但豫審中止ノ分ハ其總件數ヲ記スルニ止マリ中止日數

ヲ區別記入スルニ及ハス

○

丁第三十八號 十二月二十二日

大 審 院

裁 判 所

大坂府下第二十六國立銀行今般鎖店被申付大藏省ニ於  
テ國立銀行條例ニ據リ處分方取扱相成候ニ付テハ該銀  
行本支店又ハ出張所ニ對シ訴訟中ノ者並ニ自今出訴ノ  
者有之候ハ、本年當省丁第十九號違ニ準シ可致處分筋  
ニ候條爲心得此旨相達候事

○

丁第三十九號 十二月二十八日

大 審 院

三〇一

本年第三十五號布告ヲ以テ明治十五年第三十九號布告  
 被廢候ニ付同年當省丁第四十二號達ハ自然消滅ノ處今  
 般内務卿ヨリ更ニ照會ノ趣ニ有之候條同省へ通牒方從  
 前ノ通り可取計此旨相達候事

丁第四十號 十二月二十八日

民刑事各表並登記簿等進達ノ際爾後左ノ書例ニ準シ必  
 ス目錄ヲ添フヘシ此旨相達候事

但民事訴訟添書目錄モ亦左ノ如ク改正ス

各表并登記簿進達目錄凡例

一 登記簿並輕罪既決未決事件表ハ每季分テ其翌月中ニ

進達スヘシ其他諸表ハ其進達期限ニ從テ可シ若シ已  
 ムテ得サル事故アリテ其期限ニ進達スルヲ能ハサル  
 事ハ其事由ヲ具シ期限ヲ豫定シテ延期ヲ請フヘシ  
 一 治安裁判所ノ登記簿其他左ノ各目錄ニ掲ケル諸表ハ  
 各本廳管内治安廳ノ分テ取纏メ一同ニ進達スヘシ又  
 各支廳ニ於テモ亦其管内治安廳ノ分テ取纏メ直ニ進  
 達スヘシ

但シ刑事既決未決事件表ハ從前ノ手續ニ從テ

一 登記簿ハ一冊毎ニ其表適宜ノ場所ニ於テ其簿冊ノ紙  
 數何枚及件數何件ト記載スヘシ

民事訴訟表上中目錄

何 裁判所分

一 何年分 民事訴訟表 第壹表

何 枚

一同上 控訴并郡區戶長ノ職務ニ對スル 全

計何枚

但控訴裁判所民事訴訟表ハ明治十一年丁  
第二十一號達訴訟表上申書ノ例ニ因ル

何治安裁判所分

一何年分 民事訴訟表 何枚

一同上 勸解表 全

計何枚

合計何枚

右ノ内記載スヘキ事件ナキハ某廳何々適  
表ノ記載スヘキ事件之レナキヲ以テ欠ト適  
宜ノ所ニ記  
載スヘシニ記  
但延期中ノ者モ其旨記載スヘシ

右目錄ノ通及進達候也

年月日 何裁判所長官氏印

重輕罪登記簿上申目錄 (違警名官氏印  
次へ掲クアレハ輕罪ノ)

何裁判所分

一自何月 重罪登記簿 何冊

一同上 輕罪登記簿 全

一同上 諸罰則登記簿 全

一同上 遅不參登記簿 全

計何冊

何治安裁判所分

一自何月 輕罪登記簿 何冊

一同上 諸罰則登記簿 全

一同上 遅不參登記簿 全

計何冊

合計 何冊

右ノ内記載スヘキ事件ナキハ某應何々適  
ノハ記載スヘキ事件之レナキヲ以テ欠ト適  
宜ノ所記載スヘシ

右目錄ノ通及進達候也

何裁判所長官氏印

民事既決未決件數表上申目錄

何裁判所分

一 自何月 民事既決未決件數表

何枚

一同上 民事身代限件數表

全

一同上 民事執行件數表

全

一同上 民事控訴既決未決件數表

全

一同上 人民ヨリ院省府縣ニ對スル訴訟

既決未決件數表

全

一同上 人民ヨリ郡區戶長職務ニ對スル

訴訟件數表

全

合 何枚

何治安裁判所分

一 何年 自何月 民事既決未決件數表

何枚

一同上 民事身代限件數表

全

一同上 民事執行件數表

全

一同上 勸解件數表

全

合 何枚

右目錄ノ通及進達候也

何裁判所長官氏印

一 刑事ニ係ル既決未決事件表ハ裁判所本支應毎ニ輕罪

豫審既決未決事件表及管内違警罪既決未決事件表ヲ合  
シ各一冊トナシ其簿冊編纂ノ順序ハ左ノ如クスヘシ

第一 本廳輕罪及豫審既決未決事件表  
同廳管内違警罪既決未決事件表

第二 支廳輕罪及豫審既決未決事件表  
同廳管内違警罪既決未決事件表

但シ分署ノ違警罪既決未決事件表ハ其本署ノ次  
ニ付ス可シ

右目錄ノ例

自何月 管内各輕罪裁判所輕罪豫審及違警罪既決  
至何月 未決事件表

上申目錄

一何始審裁判所分

一冊

一何支 廳分

全

一何始審裁判所分

全

一何支 廳分

全

以下之レニ準ス

合 何 冊

右目錄ノ通及進達候也

何控訴裁判所

年 月 日

檢事長氏名印

重罪既決事件表上申目錄

自何月 何重罪裁判所重罪既決事件表 一枚

至何月 何重罪裁判所重罪既決事件表 一枚

一同 上 何重罪裁判所重罪既決事件表 一枚

以下之レニ準ス

合 何 枚

右目錄ノ通及進達候也

何控訴裁判所

年 月 日

檢事長氏名印

別號表附帶私訴公判表會議局故障

事件表上申目錄

何 裁判所分

一何年分 別號表

何 枚

一同上 附帶私訴公判表

一同上 會議局故障事件表

全

(治安裁判所モ之レニ準ス)

合 何 枚

右目錄ノ通及進達候也

年 月 日

何 裁判所長官氏印

檢事及豫審處分表上申目錄

何 裁判所分

一何年分 檢事處分表 自第一表 至第三表

何 枚

檢事處分表第二表欄外左ノ件

一同上 搜查及逮捕件數

一同上 執行人員 (死刑以下拘留) (科料等ニ至ル)

一同上 裁判費用徵收件數

何 枚

一同上 沒收物品徵收件數

一同上 同 處分件數

一同上 豫審表 自一表 至八表

何 枚

一同上 豫審第一表欄外附屬表

全

(治安裁判所之レニ準ズ)

合 何 枚

右目錄ノ通及進達候也

年 月 日

何 裁判所長(又ハ)氏名印

重罪既決犯罪表上申目錄

一 自何月

重罪裁判所重罪既決犯罪表

何 枚

右目錄ノ通及進達候也

年 月 日

何 裁判所

輕罪既決犯罪表上申目錄

一 何年

何始審裁判所輕罪既決犯罪表

何 冊

一 何月

何治安裁判所輕罪既決犯罪表

全

合 何 冊

一 同 上

何支廳輕罪既決犯罪表

何 冊

一 同 上

何治安裁判所輕罪既決犯罪表

全

合 何 冊

右目錄ノ通及進達候也

年 月 日

何 裁判所

集會條例新聞條例及刑法犯者表上申目錄

一 何年

自何月何始審裁判所分

何 枚

一 同 上

何治安裁判所分

全

合 何 枚

一 同 上

何支廳分

何 枚

一 同 上

何治安裁判所分

全

合 何 枚

(犯者之レナキ向ハ) 其旨届出ツヘシ

右目錄ノ通及進達候也

年 月 日

何 裁 判 所

特 赦 表 上 申 目 録

何 始 審 裁 判 所 分

一 何 年 分

特 赦 表

何 枚

(記 載 ス ヘ キ 事 件 無 之 向 ハ 其 旨 届 出 ヲ ハ シ)

右 目 録 ノ 通 及 進 達 候 也

年 月 日

何 裁 判 所 檢 事 氏 名 印

昨 年 本 省 丁 第 五 十 號 御 達 第 四 條 中 各 廳 於 於 收 入 ナ キ 月 八 翌 月 廿 日 限 有 之 候 得 共 同 年 第 四 十 六 號 公 達 第 八 條 中 翌 月 廿 日 ト アル ナ 翌 月 二 日 ト 正 誤 相 成 居 候 付 右 御 達 中 廿 日 ト アル ハ 則 二 日 ト 更 正

明 治 十 六 年 一 月 廿 七 日

司 法 書 記 官

明 治 十 七 年 司 法 省 達 全 書

甲 號 目 次

甲 第 一 號	民 事 訴 訟 用 紙 ノ 儀	一	丁
甲 第 二 號	川 越 治 安 裁 判 所 開 廳	同	
甲 第 三 號	柳 川 治 安 裁 判 所 開 廳	二	丁
甲 第 四 號	龍 野 治 安 裁 判 所 開 廳	同	
甲 第 五 號	十 六 年 甲 第 壹 號 告 示 中 增 補	三	丁
	改 正 ス		
甲 第 六 號	十 六 年 甲 第 三 號 告 示 中 增 加	六	丁
甲 第 七 號	宮 地 治 安 裁 判 所 開 廳	同	
甲 第 八 號	修 々 澤 治 安 裁 判 所 開 廳	同	
甲 第 九 號	武 生 水 治 安 裁 判 所 開 廳	七	丁

丙 號 目 次



二丙 第一號 犯罪證據物トシテ戸長役場 七 丁

ノ書類差押方

丙 第二號 已決囚犯罪處分司獄官へ報 一〇 丁

知方

丙 第三號 郵便犯則者ニ對スル未納稅 一一 丁

不足稅等徵收方

丙 第四號 赤峰繁藤捕縛 一二 丁

丁號目次

丁 第一號 勳章年金褫奪及停止取扱手 一三 丁

續

丁 第二號 長崎縣下布告布達施行期限 一五 丁

丁 第三號 民事訴訟用印紙製造及ヒ賣 一六 丁

捌等ノ儀

丁 第四號 十一年丁第二十一號民事訴 一七 丁

訟表中ヲ修正ス

丁 第五號 十一年丁第二十二號民事訴 二三 丁

訟表中ヲ修正ス

丁 第六號 裁判上徵收スル金錢授受ノ 三五 丁

際ハ所長或ハ檢事ニ認印セ

シム

丁 第七號 民事及勸解ニ關シ軍人軍屬 同

ニ訴狀等送達方ノ指令ヲ示

ス

丁 第八號 民事訴訟ニ關スル呼出狀并 三八 丁

ニ送達書式ヲ定ム

三丁 第九號 裁判事務調査表取扱手續中 五〇 丁

四

丁第十號	裁許用郵紙還附方	同
丁第十一號	賭博犯人逃走ニ關スル處分ノ儀	五二丁
丁第十二號	現員表用紙ヲ改定ス	五四丁
丁第十三號	東京府并ニ三重縣管下布告布達施行期限	五五丁
丁第十四號	養子離縁處分ノ儀	五六丁
丁第十五號	民刑事裁判上領置スル諸物品管守方	五九丁
丁第十六號	刑法第百九十九條及ヒ郵便條例ニ違犯シタル者處分方	六〇丁
丁第十七號	赴任日限ヲ定ム	六五丁

五

丁第十八號	諸收入金上納書式ヲ改定ス	六六丁
丁第十九號	本年丁第八號達第一條ニ但書ヲ追加ス	八八丁
丁第二十號	陸軍檢閱條例中改正	同
丁第二十一號	民刑裁判上一時預リ金并物品等登記簿ヲ定ム	九〇丁
丁第二十二號	區町村費忘納者處分ノ儀	一一七丁
丁第二十三號	勸解零則ヲ定ム	一二〇丁
丁第二十四號	全國規則違犯者取調方	一二一丁
丁第二十五號	雜收入金誤納ノ節下戻方請求手續	一二三丁
丁第二十六號	罰金ニ換ヘタル輕禁錮執行方	同

六 丁第二十七號 現今民事訴訟手續取調方 一二四丁  
丁第二十八號 十四年丁第二十六號達使丁 一二九丁  
規則第十二條へ但書ヲ追加

丁第二十九號 控訴書類返戻方 同  
丁第三十號 恩給扶助料給與者身代限處 一三二丁  
分ノ儀

丁第三十一號 民事上呼出狀及ヒ其他ノ書 一三三丁  
類送達費用支拂方

丁第三十二號 札幌根室兩縣下布告布達施 一三四丁  
行期限

丁第三十三號 輕罪裁判所同支廳ノ印章調 一三七丁  
製方

丁第三十四號 協議費先取權ノ儀ニ付テノ 一三八丁  
指令ヲ示ス

丁第三十五號 民事訴訟件數中金額及價額 一三九丁  
ノ階級取調方

丁第三十六號 勅奏官及ヒ外國官吏ハ一般 一四三丁  
ノ傍聽席ト別異セシム

丁第三十七號 有位ノ准奏任及非役有位等 一四四丁  
著服ノ儀

丁第三十八號 文武奏任官以上宮中儀式上 同  
席次ノ儀

丁第三十九號 鎖店國立銀行ニ於テノ金銀 一四七丁  
物品處分方

七 丁第四十號 證人鑑定人等ノ人員并共費 一四九丁

用等取調方

號外目次

號 外 大審院裁判所職員考績條例 一五二丁

ヲ定ム

號 外 大審院裁判所判事檢事以下 一五八丁

定員及ヒ俸給ヲ定ム

明治十七年司法省達全書

甲號ノ部

甲第壹號 三月五日

今般第五號布告ヲ以テ訴訟用野紙規則廢セラレ候ニ付  
 テハ本年四月一日以後民事訴訟ニ關シ大審院又ハ裁判  
 所へ差出ス書類ハ都テ美濃紙又ハ之レト同尺度ノ紙ヲ  
 用ヒ一枚貳拾四行一行貳拾字詰ニ書スヘキモノトス  
 但訴訟入費ハ明治九年當省甲第五號布達第一條第九  
 條ニ定メタル割合ニ依リ書類認料ハ一枚金貳拾錢  
 譯料ハ一枚金四圓ト相成ル義ト心得ヘシ

右告示候事

甲第二號 四月二日

三 浦和始審裁判所管内川越治安裁判所來ル五月一日ヨリ

開應ス

右告示候事

○ 甲第三號 六月十二日

福岡始審裁判所久留米支應管内柳川治安裁判所本月十

六日ヨリ開應ス

右告示候事

○ 甲第四號 六月廿四日

神戸始審裁判所姫路支應管内龍野治安裁判所來七月一

日ヨリ開應ス

右告示候事

○ 甲第五號 十月八日

本年十月第廿七號布告ヲ以テ明治十六年一月第貳號布告裁  
判所一覽表中増補改正相成候ニ付テハ明治十六年當省  
甲第壹號告示中左ノ通増補改正ス

○ 増補

一 久留米治安裁判所

三 漣郡ノ内

柳川治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

一 柳川治安裁判所

三 漣郡ノ内

金納村 大藪村 立石村 矢ヶ部村 高橋村

高島村 浦生村 筏溝村 三八松村 奥牟田村

三

四

覆津村	久々原村	三ツ丸村	小保町	九綱村
幡保村	大野島村	吉原村	津村	新田村
南濱武村	上巻村	一ツ木村	古賀村	北古賀村
紅粉屋村	西濱武村	鬼古賀村	七ツ家村	東蒲地村
萩島村	間村	西蒲地村	郷原村	田脇村
坂井村	酒見村	諸富村	中古賀村	向島村

一大曲治安裁判所

平鹿郡ノ内

角間川村	板井田村	袴形村	十日町村
------	------	-----	------

一横手治安裁判所

平鹿郡ノ内

大曲治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

○改正

一宮崎治安裁判所

南那珂郡ノ内

北河内村	郷ノ原村	大藤村	東辨分村	松永村
益安村	殿所村	板敷村	今町	星倉村
楠原村	本町	吉野方村	酒谷村	塚田村
大窪村	橋ノ口村	贅波村	脇本村	瀧上村
谷ノ口村	中村	津屋野村	毛吉田村	萩ノ嶺村
上方村	下方村	隈谷村	西辨分村	戸高村
平野村	油津町	平山村	風田村	宮浦村
富士村	伊比井村			

一都城治安裁判所

南那珂郡ノ内

宮崎治安裁判所管轄ヲ除キ外一圓

五

六 右告示候事

甲第六號 十月九日

明治十六年六月當省甲第三號告示中下妻治安裁判所管轄  
筑波郡ノ内各村名中ニ安食村ノ三字ヲ加フ  
右告示候事

甲第七號 十月十八日

熊本始審裁判所管内宮地治安裁判所本月廿三日ヨリ開  
應ス  
右告示候事

甲第八號 十一月七日

弘前始審裁判所管内鯉ヶ澤治安裁判所來ル十二月一日  
ヨリ開應ス  
右告示候事

甲第九號 十一月廿九日

長崎始審裁判所平戸支廳管内武生水治安裁判所來明治  
十八年一月一日ヨリ開應ス  
右告示候事

丙第壹號 五月三十日

大 審 院  
裁 判 所  
警 視 廳

府 縣 東京府  
憲 兵 本部

犯罪證據物トシテ戸長役場備置ノ書類ヲ差押フル儀ニ  
付甲號福井縣上申ニ對シ乙號ノ通及指令候條爾後戸籍  
帳等ノ差押ニ付テハ右ノ手續ニ依リ取扱フ可キ儀ト心  
得可シ此旨相達候事

甲號

裁判所ニ於テ犯罪證據物トシテ戸長役場備置ノ要  
書差押ヘタル節還附方ノ儀ニ付上申

犯罪證據物トシテ裁判所ニ於テ戸長役場備置ノ戸籍帳  
又ハ土地建物船舶賣買讓渡質入書入與書割印簿等ヲ差  
押ヘ數十日間還附セサルコアリ然ルニ戸長役場ニ於テ  
ハ部下ノ人民生死送入籍其他ノ異動加除ヲ要ス又ハ陸

續公証ヲ請ヒ就中質入書入契約ノ如キ義務消盡ニ據リ  
公証取消ノ儀申出ル者アルモ本簿へ照較消印スル能ハ  
サルヲ以テ其旨ヲ具ヘ簿冊下戻方裁判所へ照會スルモ  
其事件ニ付差押ヘタル證據物ナル故一件落着迄還付シ  
難キ旨回答有之取扱上頗ル差支候趣ヲ以テ伺出候向ア  
リ右ハ犯罪證據物トシテ差押ヲ要スルハ其一部分ニ止  
ルヘクシテ而シテ該簿冊ニ登載セル其他ノ事件全体ニ  
關シ行政上取扱ニ支障ヲ來シ不都合不勘就テハ斯場合  
ニ於テハ其必要ノ廉ハ裁判所ニ於テ謄寫シ本書加除ス  
ルヲ得サル様掛紙契印等ヲ爲シ而シテ簿冊ハ直ニ還付  
スヘク様致度御詮議ノ上何分ノ御指揮相成度此段上申  
候也

明治十七年一月二十九日 福井縣令石黒 務



○

内務卿山縣有朋殿  
司法卿山田顯義殿

乙號

書面上申之趣聞届候尤裁判所ニ於テ臆寫セシ該書ハ  
戸長之レニ調印スヘシ若シ其臆寫ニ拘ハル内ニ加除等  
ヲ要スル時ハ其都度裁判所ノ許否ヲ得ヘキ儀ト可心得  
事

明治十七年五月二十八日

○

丙第貳號 六月廿三日

大審院  
裁判所  
警視廳

府縣東京府  
ヲ除ク

已決囚ノ犯罪ニ付キ之ヲ裁判所ニ呼出シ審理ノ末刑ノ  
言渡ヲ爲ス場合ニ於テハ明治十五年當省丙第八號達ニ  
依リ檢察官ヨリ其宣告書ノ臆本ヲ司獄官ニ送達スルハ  
勿論自今已決囚ニ對スル其他ノ宣告ニ付テモ其豫審ニ  
係ルト公判ニ係ルトヲ問ハス書記ヨリ宣告書ノ臆本ヲ  
司獄官ニ送致シ又証人トシテ出廷セシメタル已決囚用  
濟ニ至リタル時ハ亦書記ヨリ其旨ヲ司獄官ニ報知ス可  
キ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

丙第三號

八月十三日

大審院  
裁判所

警視廳  
府縣東京府  
憲兵本部

郵便犯則者ニ對スル未納稅不足稅等徵收方ノ儀ニ付太  
政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相達候事

司法省

驛遞局ヨリ郵便犯則者ヲ告訴スルト併セテ未納稅不足  
稅等ノ徵收ヲ請求スルトキハ其請求ニ應シ之ヲ受理ス  
ル儀ト可心得此旨相達候事

明治十七年七月廿三日  
太政大臣三條實美

丙第四號  
八月十四日

警視廳

府縣東京府  
ヲ除ク

大分縣第五大區七小區大野郡  
赤峯村平民幼名辰藏事

赤峯繁藤

右之者明治十一年當省乙第拾五號ヲ以テ捕縛方相達置  
候處今般捕縛相成候旨宮崎輕罪裁判所檢事代理檢事補  
木付篤ヨリ届出候條此旨相達候事

丁號ノ部

丁第壹號  
一月十二日

大審院  
裁判所

勳章年金褫奪及停止取扱手續ノ儀ニ付太政官ヨリ左ノ  
通被達候條此旨相達候事

別紙陸軍省勳章年金褫奪及停止取扱手續ノ儀朱書ノ  
通及指令候條此旨相達候事

明治十六年十二月廿八日 太政大臣三條實美

(別紙)

勳章年金褫奪及停止取扱手續ノ儀ニ付伺

先般勳章年金褫奪及ヒ停止取扱手續御達相成候處其以  
前即チ本年第二十二號御布告後第三十九號御達迄之間  
ニ於テ右適該スル者アルモ勿論該手續ニ準據ス可カラ  
サル儀ト相心得可然哉ノ旨伺出候處右ハ本年第二十二  
號布告發布後ハ第三十九號達ニ據リ處分スル儀ト可相  
心得旨御指令之趣敬承仕候然ルニ該手續第二十條ニ據  
レハ勳章褫奪シタル後處刑言渡ヲ爲スモノト有之候處

右第二十二號御布告後第三十九號御達迄之間ニ於テ已  
ニ輕重禁錮ノ處分ヲ受ケ又ハ已ニ其刑滿期後之者ト有  
之右等ハ如何ノ手續キテ以テ褫奪方取扱可然哉至急何  
分ノ御指揮相成度此段更ニ相伺候也

明治十六年十一月十五日 陸軍卿大山 巖

太政大臣三條實美殿

(朱書)

伺之趣本年第二十二號布告後第三十九號達發表以前ニ  
アツテ既ニ刑ノ言渡ヲナシ未タ勳章褫奪ノ手續ヲナサ  
サルモノハ該達第三條ノ手續ニヨリ更ニ其罪狀及刑名  
ヲ賞勳局總裁へ具申スヘキ儀ト可相心得事

明治十六年十二月廿八日

六一

丁第二號

一月十二日

大審院

裁判所

長崎縣下肥前國南北松浦西彼杵三郡ノ内平島外五島ハ  
 海路險惡航通不便ニシテ他ト同視難致島地ニ付布告布  
 達施行期限ハ該島ヘ到達ノ翌日ヨリ起算致度越其筋ヨ  
 リ伺出候處北松浦郡宇久島ノ内平村神浦小値賀島ニ限  
 リ御聞届相成候旨太政官ヨリ被達候條此旨相達候事

丁第三號

三月六日

大審院

裁判所

民事訴訟用印紙製造及賣捌等ノ儀ニ付太政官ヨリ左ノ

通御達有之候爲心得此旨相達候事

司法省

今般第五號布告民事訴訟用印紙製造及賣捌等ノ儀ハ大  
 藏省於テ可取扱旨別紙ノ通相達候條此旨相達候事

明治十七年三月四日

太政大臣三條實美

(別紙)

大藏省

今般第五號ヲ以テ民事訴訟用印紙規則布告候處右印紙  
 製造及賣捌等ノ儀ハ其省於テ取扱可申此旨相達候事

明治十七年三月四日

太政大臣三條實美

丁第四號

三月十四日

控訴裁判所

始審裁判所

七一

明治十一年六月丁第二十一號ヲ以テ相違置候民事訴訟表  
離形並記載例中今般別紙ノ通修正候條昨十六年分ヨリ  
右ニ準シ調成スヘシ此旨相違候事

但昨十六年分ハ來ル五月三十一日限差出ス可シ

明治十一年民事訴訟表修正

一第一表離形中下段(初審廳名)ノ欄ヲ刪除ス

一第一表第二表離形中初告ノ欄ヲ刪除シ人民ヨリ諸官  
廳ニ對スル訴訟ハ控訴表中へ合載セズ第一二表共引  
分ク總テ別表ニ調成スヘシ

一控訴表ノ表題ハ控訴裁判所ニ於テハ何控訴裁判所控  
訴第一表第二表ト記シ始審裁判所ニ於テハ何始審裁  
判所控訴第一表第二表ト記スヘシ

一人民ヨリ諸官廳ニ對スル訴訟表ノ表題ハ控訴裁判所

ニ於テハ人民ヨリ院省府縣ニ對スル訴訟第一表第二  
表ト記シ始審裁判所ニ於テハ人民ヨリ郡區戶長ニ對  
スル訴訟第一表第二表ト記スヘシ

一内外國人交渉ノ訴訟中控訴ニ係ルモノハ控訴表中へ  
合載シ我官廳ニ對スルモノハ人民ヨリ諸官廳ニ對ス  
ル訴訟表中へ合載セシ後再ヒ第一表離形ニ準據シ別  
表ニ抽記シテ附屬表ト爲スヘシ但外國人國名ハ附屬  
表ノ下段ニ列載ス可シ第二表ハ抽記

一大審院ヨリ移サレタル件數ハ控訴表中へ合載セズ第

一二表ニ準シ別表ヲ調成シテ附屬表ト爲スヘシ

一第一表第二表離形中訴訟件目ノ下商業非商業ノ區分  
ハ記入スルニ及ハズ表末或ハ別紙ニ於テ結局件數中  
商業上ニ關スル訴訟何件ト記載スヘシ

- 一 第一表上段末尾ニ列載セル始審裁判所ノ廳名ハ何始審裁判所若シハ何始審裁判所何支廳何治安裁判所ト記載スヘキ者トス但明治十五年以前受理セシ件數ニシテ舊裁判所ノ名義ニ係ル者ハ現在ノ廳ニ合載ス可シ件數ハ各横線ニ照ラシ總數以下未決ニ至ル迄總テ記入スヘキ者トス
- 一 第一表結局區別中棄却欄内ノ各區ヲ刪除シ單ニ棄却ト記シ表末或ハ別紙ニ於テ棄却件數ノ内始審裁判所ヲ經サル者何件控訴期限ヲ過ル者何件ト詳細ニ其理由ヲ標出スヘシ
- 一 未決欄内越高新訴ノ區別ヲ刪除シ單ニ未決件數ト記スヘシ
- 一 控訴ノ解訟トナリタル件數ハ第一表中願下ノ下ニ解訟ノ一欄ヲ設ケテ記入スヘシ

- 一 他ノ裁判所ニ引繼キタル件數ハ結局區別中(他廳廻シ)ノ一欄ヲ設ケテ記入シ表末或ハ別紙ニ於テ他廳廻シノ内何件ハ何裁判所廻シ何件ハ何裁判所廻シト記載スヘシ
- 一 他ノ裁判所ヨリ受繼タル件數ハ新訴ノ部ニ合記シ表末或ハ別紙ニ於テ新訴ノ内何件ハ何廳ヨリ受繼ト記スヘシ
- 一 受理件數中自然訴訟ノ消滅ニ歸シタルモノアルキハ第一表結局區別中(消滅)ノ一欄ヲ設ケテ記入シ表末或ハ別紙ニ於テ消滅ノ理由ヲ詳細ニ標出ス可シ
- 一 訴訟ノ件目ハ記載例第二條ニ列載セル如ク○印ヲ付シタル者ヲ以テ類別シ第一類ヲ人事トシ第二類ヲ土地トシ第三類ヲ建物トシ第四類ヲ金錢トシ第五類ヲ

米穀トシ第六類ヲ物品トシ第七類ヲ証券トシ第八類  
ヲ雜事トシ各種類毎ニ計算シテ記入スヘシ

一 第二表下半截身代限ニ關スル各欄ヲ刪除ス 萬一控訴  
ニ係ル身代限事件アルキハ始審第

三表身代限表ニ準シテ調成スヘシ

一 第二表金額階級ハ左ノ例ニ準シテ區分スヘシ但シ壹  
萬圓以上ニ涉ル訴訟ハ壹萬圓毎ニ區分ス可キ者トス

五 圓 未 滿

五 圓 以上 拾 圓 未 滿

拾 圓 以上 貳 拾 圓 未 滿

貳 拾 圓 以上 五 拾 圓 未 滿

五 拾 圓 以上 七 拾 五 圓 未 滿

七 拾 五 圓 以上 百 圓 未 滿

百 圓 以上 貳 百 五 拾 圓 未 滿

貳 百 五 拾 圓 以上 五 百 圓 未 滿

五 百 圓 以上 七 百 五 拾 圓 未 滿

七 百 五 拾 圓 以上 千 圓 未 滿

千 圓 以上 貳 千 五 百 圓 未 滿

貳 千 五 百 圓 以上 五 千 圓 未 滿

五 千 圓 以上 壹 萬 圓 未 滿

合 計

一 第一表第二表ノ末尾ニ示ス所ノ符號ノ例ヲ刪除ス但  
シ上巻ニ係ル件數ハ表末ニ列載ス可シ

○

丁 第五號 三月十四日

始審裁判所

治安裁判所

明治十一年六月丁第二十二號ヲ以テ相達置候民事訴訟表  
離形並記載例中今般別紙之通修正候條昨十六年分ヨリ  
右ニ準シ調成スヘシ此旨相達候事

但昨十六年分ハ來ル五月三十一日限差出スヘシ

丁明治十一年民事訴訟表修正

一第一表離形中下段(原被告府縣國名)ノ欄ヲ刪除ス

一第一表結局區別中棄却欄内ノ各區ヲ刪除シ單ニ棄却  
ト記シ表末或ハ別紙ニ於テ棄却件數ノ内訴訟手續ニ  
違フ者何件何々規則ニ違フ者何件ト詳細ニ其理由ヲ  
標出スヘシ

一未決欄内越高新訴ノ區別ヲ刪除シ單ニ未決件數ト記  
スヘシ

一内外國人交渉ノ訴訟ハ第一表第二表へ合載セシ後

一第一表離形ニ準據シ別表ニ抽記シテ附屬表ト爲ス  
ヘシ但外國人國名ハ附屬表ノ下段ニ列載スヘシ第二  
ニ抽記スル  
ハ記入スルニ及ハス表末或ハ別紙ニ於テ結局件數中

一第一表第二表離形中訴訟件目ノ下商業非商業ノ區分  
ハ記入スルニ及ハス表末或ハ別紙ニ於テ結局件數中  
商業上ニ關スル訴訟何件ト記載スヘシ

一他ノ裁判所ニ引繼キタル件數ハ結局區別中(他應廻シ)  
ノ一欄ヲ設ケテ記入シ表末或ハ別紙ニ於テ他應廻シ  
ノ内何件ハ何裁判所廻シ何件ハ何裁判所廻シト記載  
スヘシ勸解件數表

一他ノ裁判所ヨリ受繼タル件數ハ新訴ノ部ニ記入シ表  
末或ハ別紙ニ於テ新訴ノ内何件ハ何應ヨリ受繼ト記  
スヘシ勸解件數表



- 一 受理件數中自然訴訟ノ消滅ニ歸シタルモノアルトキ
- ハ 第一表結局區別中(消滅)ノ一欄ヲ設ケテ記入シ表
- 末或ハ別紙ニ於テ消滅ノ理由ヲ詳細ニ標出スヘシ
- 一 訴訟ノ件目ハ記載例第二條ニ列載セル如ク○印ヲ付
- シタル者ヲ以テ類別シ第一類ヲ人事トシ第二類ヲ土
- 地トシ第三類ヲ建物トシ第四類ヲ金錢トシ第五類ヲ
- 米穀トシ第六類ヲ物品トシ第七類ヲ證券トシ第八類
- ヲ雜事トシ各種類毎ニ計算シテ記入スヘシ 勸解件數表
- 一 第二表離形中金員階級ト身代限表ヲ分ツテ別表ニ調
- 成シ金員階級表ヲ始審第二表ト爲シ身代限處分表ヲ
- 始審第三表ト爲スヘシ
- 一 第二表金額階級ハ左ノ例ニ準シテ區分スヘシ但壹萬
- 圓以上ニ涉ル訴訟ハ壹萬圓毎ニ區分ス可キ者トス

五 圓 未 滿

- 五圓以上拾圓未滿
- 拾圓以上貳拾圓未滿
- 貳拾圓以上五拾圓未滿
- 五拾圓以上七拾五圓未滿
- 七拾五圓以上百圓未滿
- 百圓以上貳百五拾圓未滿
- 貳百五拾圓以上五百圓未滿
- 五百圓以上七百五拾圓未滿
- 七百五拾圓以上千圓未滿
- 千圓以上貳千五百圓未滿
- 貳千五百圓以上五千圓未滿
- 五千圓以上壹萬圓未滿

合計

一 第三表即チ身代限處分表ハ訴訟件目ヲ記スルニ及ハ  
 ス上段ニ於テ身代限トナリタル負債金員階級ヲ列載  
 スヘキ者トス 第二表ニ準區分ハ但シ該離形中穀ノ欄ヲ  
 刪除シ單ニ負債金額償却金額ト記シ米穀物品其他ノ  
 事件ヨリ身代限トナリタル者ハ渾テ金額ニ引直シテ  
 記入スヘシ

一 第二表末欄(人民相互)官ニ對シタル(官民共ニ關シタル)  
 (外國人ニ關シタル)等ノ區別及ヒ縱線外ニ示ス處ノ符  
 號ノ例ヲ刪除ス但外國人ニ關シタル身代限事件ハ一  
 旦本表ニ記入シ再ヒ本表ニ準ノ附屬表ヲ調成スヘシ

一 始審第三表身代限表ニ記入スヘキ各件ハ第一表第二  
 表中ヨリ抽記スルノミナラス其他渾テ裁判所ニ於テ

身代限處分ヲ爲シタルモノハ洩ラシナク記入スヘシ

一 刑法附則第六十三條被害者ヨリ民事裁判所ニ身代限  
 ノ處分ヲ請求スルモノハ第一表第二表中ニ合載セス  
 單ニ身代限表ヘノミ記入スヘシ

一 裁判執行願ノ件數ハ第一表第二表ニ合載セズ明治十  
 五年丁第四號達第二號民事執行件數表離形ニ準據シ  
 一ヶ年分取纏メ調成スヘシ

但結局區別中願下棄却等ノ類アラハ實際取扱ノ區  
 分ニ隨ヒ別ニ欄ヲ設ケテ記入スヘシ

一 明治十五年第十二號公達貸下金其他諸上納金未納ノ  
 者他ノ負債ノ爲メ身代限ノ處分ヲ受ル場合ニ於テ官  
 廳ヨリ裁判所ニ未納金ヲ請求スル者ハ通常ノ訴訟件  
 數ト同シク第一表第二表第三表ヘ記入スヘシ

一身代限件數人員ハ左ノ例ニ準シテ記入スヘシ

(被告件數ノ欄)ハ公判示談ノ別ナク六十日揭示濟ソ  
 上全ク分配處分ノ結了セシ身代限被告總件數ヲ記入  
 スヘキモノニシテ處分中ニ係ルモノハ記入ス可カラ  
 ス 揭示前等ニテ身代限取消願ヲ爲シ聞  
 届ケタル被告件數ハ此内ニ合載セス  
 (配賦濟件數ノ欄)ハ償却ノ幾分ヲ問ハス 渾テ分配ヲ  
 爲シタル被告件數ヲ記入スヘキモノニシテ此件數ト償  
 却高皆無ノ件數トナ合セテ身代限トナリタル被告總  
 件數ト符合スヘキ者トス  
 (原告件數ノ欄)ハ身代限トナリタル被告ニ對スル原  
 告ノ件數ニシテ本件ト分配加入件トナ合載スヘシ  
 (負債主人員ノ欄)ハ身代限トナリタル被告人員ノ實  
 數ヲ記入スヘシ

(債主人員ノ欄)ハ本件ト加入件トナ問ハス 渾テ原告  
 トナリタル債主人員ノ實數ヲ記入スヘキ者トス 先取  
 權アル部ヘハ他ノ債主ニ先ツテ受取ルヘキ人員ヲ記  
 シ 通常ノ部ヘハ各債主平等ニ分配ヲ受クヘキ人員ヲ  
 記スヘシ  
 (負債金額ノ欄)ハ各債主ヘ償還スヘキ負債金額ノ實  
 數ヲ記入スヘシ  
 (償却金額ノ欄)ハ各債主ヘ償還セシ金員ノ實數ヲ記  
 スヘシ  
 (償却高皆無ノ欄)ハ各債主ヘ償却スヘキ財産ナキ被  
 告ノ件數ヲ記入スヘシ  
 (償却高皆級)ハ負債高ニ對シ償却高ノ割合何分ニ該ル  
 ヤヲ見ルモノニシテ此件數ヲ合算スレハ即チ配賦濟



四三

一 右前年ノ殘件本年ノ新件トハ詞訟本按ノ新舊ヲ謂ニ  
 アラス身代限裁判言渡ノ日又ハ身代限對談ヲ結ヒタ  
 ル日ヲ以テ一件ト爲シ新舊ヲ區分スヘキ者トス  
 一 勘解件數表離形中下段(未決)ノ欄ヲ刪除シ(總數)ヲ(結局  
 總數)ト爲シ結局件數ノミ表中ニ記入スヘシ  
 一 勘解件數中前年ヨリ越高本年ノ新件及ヒ未決件數ハ  
 左ノ例ニ準シテ表末ニ記載スヘシ  
 前年ヨリ越件 二十件  
 本年 新件 八十件  
 合計百件  
 結局件數 九十件  
 內  
 未決件數 十件

丁第六號

三月廿二日

裁判所東京控訴裁  
判所ヲ除ク

明治十五年當省丁第三十九號ヲ以テ裁判上徵收スル金  
 錢授受ノ手續相達置候處自今猶又該所長或ハ席長檢事  
 ニ於テ右授受ノ都度遞付録ヘ認印可致此旨相達候事  
 但シ民事ニ係ル金錢モ勿論同様取計ヲ可シ

丁第七號

三月廿五日

大 審 院  
裁 判 所

五三

民事及勘解ニ關シ軍人軍屬ニ訴狀呼出狀送達方ノ義別  
 紙ノ通青森治安裁判所ヨリ伺出候ニ付朱書ノ如ク及指

令候條爲必得此旨相違候事

民事勸解等ニ付軍人軍屬ニ對シ訴狀送達及ヒ呼出ノ儀ニ付伺

第一條 在營ノ軍人軍屬兵卒等ニシテ民事勸解等ニ相  
手取ラレタル時ハ判任以下他文官トハ自ラ身分ヲ異  
ニスルモノナレハ訴狀及ヒ呼出狀ハ所屬長官ヲ經由  
シテ送達スヘキヤ

第二條 下士官等ニテ營外ニ下宿ナシ居ルモノニ係  
ル時ト雖モ同ク所屬長官ヲ經由シテ送達スヘキヤ將  
タ本人ニ直チニ送達スルモ苦シカラスヤ

第三條 右訴狀ノ送達ヲ受ケタルノ後ハ原告ト對談ヲ  
以テ濟方延期ヲ願出シ置キ其延期中ニ在リテ他ニ轉  
營ノ命ヲ受ケタルノ際代人ヲモ差出サス原告ヘモ何

等ノ斷モナク出起シタル者再度ノ呼出ハ如何取計可

然哉

右差掛リ候儀モ有之候條至急御指令相成度此段弘前始  
審廳ヲ經由シテ奉伺候以上

青森治安裁判所長

明治十七年二月十四日

判事補堀 清以

司法卿山田顯義殿

朱書

伺ノ趣ハ左ノ通り

第一條 所屬ノ隊長長官ヲ經由ス可シ

第二條 末段見込ノ通

第三條 第一條指令ノ通心得ヘシ

明治十七年三月二十二日

大 審 院  
裁 判 所

今般訴訟用郵紙規則廢セラレ候ニ付民事訴訟ニ關スル  
呼出狀並ニ送達書式別紙ノ通相定候條左ノ手續ニ依リ  
取扱可申事

但大審院控訴裁判所ヨリ發スル證人等ノ呼出狀並ニ  
送達書ハ第四號第五號書式ニ準シ調製可致事

第一條 大審院控訴裁判所ニ於テハ其所在地ニ在ル者  
始審裁判所治安裁判所ニ於テハ其管轄地内ニ在ル者  
ニ對シ呼出狀ヲ發シ又ハ書類ヲ送達スヘキハ都テ  
其所屬使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ

若シ送達ヲ受ルモノ該應所在地又ハ管轄地内ニ在ラ  
サル時ハ之レヲ管轄始審裁判所又ハ治安裁判所ニ送  
致シ送達方ヲ囑托スヘシ

第二條 送達方ノ囑托ヲナスヘキ場合ニ於テハ裁判所  
ヘノ往復費(郵便)並ニ裁判所ヨリノ使丁賃金ヲ見積リ  
其送達ヲ請求スルモノヨリ假納セシメ置クヘシ

第三條 囑托ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ其所屬使丁ヲ  
シテ之レヲ送達セシメタル上其呼出狀又ハ送達書(囑  
托)致シ應ヨリ送ノ一通ヲ囑托ヲナシタル應ニ回送シ且  
使丁賃金及ヒ回送費用(郵便)ノ額ヲ報知シテ償却ヲ求  
ムヘシ

右相達候事

第一號川紙美濃紙ノ類

輪廓寸法凡竪七寸  
横四寸七步

呼		出		狀	
番訴 號訟	明治何年 第何號	標目	訴訟	住所身分職業 氏名	原告氏名ヨリ前記ノ事件及 出訴候ニ付別冊訴狀送達候 條來ル何月何日午前何時當 裁判所ニ出頭答書可差出者 也
		何々	何々	住所身分職業 氏名	原告氏名ヨリ前記ノ事件及 出訴候ニ付別冊訴狀送達候 條來ル何月何日午前何時當 裁判所ニ出頭答書可差出者 也
		數冊類書	何冊	住所身分職業 氏名	原告氏名ヨリ前記ノ事件及 出訴候ニ付別冊訴狀送達候 條來ル何月何日午前何時當 裁判所ニ出頭答書可差出者 也
受取人ノ署 名捺印若シ ハ其事由	送達シタ ル場所	送達シタ ル月日時	送取人ノ署 名捺印若シ ハ其事由	親屬雇人又 ハ委任ヲ受 ケタル者若 クハ月長者 ハ其事由	右之通取扱候也 明治何年何月何日 使丁 氏名印

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

呼		出		狀	
番訴 號訟	明治何年 第何號	標目	訴訟	住所身分職業 氏名	原告氏名ヨリ前記ノ事件及 出訴候ニ付別冊訴狀送達候 條來ル何月何日午前何時當 裁判所ニ出頭答書可差出者 也
		何々	何々	住所身分職業 氏名	原告氏名ヨリ前記ノ事件及 出訴候ニ付別冊訴狀送達候 條來ル何月何日午前何時當 裁判所ニ出頭答書可差出者 也
		數冊類書	何冊	住所身分職業 氏名	原告氏名ヨリ前記ノ事件及 出訴候ニ付別冊訴狀送達候 條來ル何月何日午前何時當 裁判所ニ出頭答書可差出者 也
受取人ノ署 名捺印若シ ハ其事由	送達シタ ル場所	送達シタ ル月日時	送取人ノ署 名捺印若シ ハ其事由	親屬雇人又 ハ委任ヲ受 ケタル者若 クハ月長者 ハ其事由	右之通取扱候也 明治何年何月何日 使丁 氏名印





呼		出		狀	
番上 號告	明治何年 第何號	標上 目告	何々	前記 上告 別上 冊上 日冊 頭答 ヲ距 與離 〜八 候里 事毎 一本 院者 一〜 日ノ 猶ル 豫ノ	住所身分 職業 氏名
受取人ノ 署名ハ サレバ 其事由	送達シタ ル場所	親屬 ハ委任 ケタル ハハ長 クハ月 渡シタ ルニ ハ其事 由	送達シタ ル月日時	大審院 印 廳	大審院
右之通取扱候也					
明治何年何月何日					
使丁 氏名印					

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人ハ渡シ

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

呼		出		狀	
番上 號告	明治何年 第何號	標上 目告	何々	前記 上告 別上 冊上 日冊 頭答 ヲ距 與離 〜八 候里 事毎 一本 院者 一〜 日ノ 猶ル 豫ノ	住所身分 職業 氏名
受取人ノ 署名ハ サレバ 其事由	送達シタ ル場所	親屬 ハ委任 ケタル ハハ長 クハ月 渡シタ ルニ ハ其事 由	送達シタ ル月日時	大審院 印 廳	大審院
右之通取扱候也					
明治何年何月何日					
使丁 氏名印					

呼		出		狀	
番訴 號	明 治 何 年 第 何 號	標 目	何 々	及 右 前 記 訴 訟 事 件 ニ 付 及 證 人 引 合 人 ト シ テ 相 尋 儀 有 之 鑑 定 評 價 ヲ 命 ス ル 儀 有 之 候 條 來 ル 何 月 何 日 午 前 何 時 當 裁 判 所 へ 出 頭 可 致 者 也	明 治 何 年 何 月 何 日 印 廳
受 取 人 ノ 署 名 捺 印 若 シ ハ 其 事 由 ハ 其 事 由	送 達 シ タ ル 場 所	送 達 シ タ ル 月 日 時	送 達 シ タ ル 場 所	親 屬 雇 入 又 ハ 委 任 者 若 シ ハ 其 事 由 ハ 其 事 由	右 之 通 取 扱 候 也  明 治 何 年 何 月 何 日
使 丁 氏 名 印		使 丁 氏 名 印		使 丁 氏 名 印	

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

呼		出		狀	
番訴 號	明 治 何 年 第 何 號	標 目	何 々	及 右 前 記 訴 訟 事 件 ニ 付 及 證 人 引 合 人 ト シ テ 相 尋 儀 有 之 鑑 定 評 價 ヲ 命 ス ル 儀 有 之 候 條 來 ル 何 月 何 日 午 前 何 時 當 裁 判 所 へ 出 頭 可 致 者 也	明 治 何 年 何 月 何 日 印 廳
受 取 人 ノ 署 名 捺 印 若 シ ハ 其 事 由 ハ 其 事 由	送 達 シ タ ル 場 所	送 達 シ タ ル 月 日 時	送 達 シ タ ル 場 所	親 屬 雇 入 又 ハ 委 任 者 若 シ ハ 其 事 由 ハ 其 事 由	右 之 通 取 扱 候 也  明 治 何 年 何 月 何 日
使 丁 氏 名 印		使 丁 氏 名 印		使 丁 氏 名 印	

送				達				書			
一送達スル書名 壹冊				一同				右何府何國何郡區町			
何番地何某へ				送達スル者也				明治何年何月何日 印 應			
受取人ノ署名捺印若シハ其事由				親屬雇人又ハ委任ヲ受ケタル者若クハ月長ニシテハ其事由				送達シタル月日時			
送達シタル場所				送達シタル月日時				送取人ノ署名捺印若シハ其事由			
右之通取扱候也				明治何年何月何日				使丁 氏名印			

是ヲ中斷シテ一葉ヲ受取人へ渡シ

一葉ヲ書記局へ還納スヘシ

送				達				書			
一送達スル書名 壹冊				一同				右何府何國何郡區町			
何番地何某へ				送達スル者也				明治何年何月何日 印 應			
受取人ノ署名捺印若シハ其事由				親屬雇人又ハ委任ヲ受ケタル者若クハ月長ニシテハ其事由				送達シタル月日時			
送達シタル場所				送達シタル月日時				送取人ノ署名捺印若シハ其事由			
右之通取扱候也				明治何年何月何日				使丁 氏名印			